

総務常任委員会
予算常任委員会総務分科会

(令和3年3月4日)

○ 荻須智之委員長

おはようございます。昨日に引き続き、危機管理監についての審査を続けさせていただきます。

議案第123号 令和2年度四日市市一般会計補正予算（第10号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第2款 総務費

第1項 総務管理費

第14目 防災対策費

○ 荻須智之委員長

議案第123号令和2年度四日市市一般会計補正予算（第10号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第14目防災対策費についてを議題といたします。

本件は、追加上程議案でありますので、資料の説明を求めます。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。

タブレットのほうで、01本会議、128、下のほうに行ってきました、2月26日追加配布、令和2年度2月補正予算書（第10号）の40ページと41ページ。防災対策費のところでございますけれども、補正前の額でございますが、8億2704万5000円、補正額マイナス9237万9000円で、減額の予算額は7億3466万6000円となります。

右の41ページです。防災施設等整備事業費、それから住宅等耐震化促進事業費、防災対策事業費となります。

ここからは、補正予算書のほうで説明をさせていただきますので、タブレットのほうに戻っていただきまして、09、2月定例月議会、02、予算常任委員会資料部局別の223、補正予算資料危機管理監の3ページをご覧ください。

防災対策事業の市民総ぐるみ総合防災訓練でございます。例年実施している本市の市民

総ぐるみ総合防災訓練は、毎年秋の実施に合わせて4月から各関係機関との会議等の準備を進めておりますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言が発出されていたことから、十分な打合せ期間が確保できなかったことに加えまして、その時点で防災訓練に参加する多くの市民や市外・県外からの多数の関係機関に対する新型コロナウイルス感染症拡大防止のための十分な対策計画が困難であったことから、訓練を中止させていただきました。

そのため、市民総ぐるみ総合防災訓練に係る防災訓練事業費の減額補正を行うものです。当初予算額277万9000円に対しまして、補正予算額として277万9000円の減額をお願いするものであります。

続いて、次の4ページをご覧ください。住宅等耐震化促進事業でございます。住宅等耐震化促進事業につきましては、木造住宅の無料耐震診断や、耐震補強計画策定、工事費等への補助を実施するとともに、地震時に通行を確保すべき道路沿いの建築物の耐震診断や耐震補強計画、耐震改修への補助を実施し、耐震化を促進するものであります。

補正の内容といたしましては、当初想定より申請件数の減少、また、沿道建築物において補助申請予定であった案件の全額自費負担での施工に伴う補助申請の取りやめ、補強工事方法の精査による補助対象工事価格の減少などにより、補助執行金額が当初予定を下回ったため、減額補正を行うものであります。当初予算額の23億8550万円に対しまして、補正予算額として8360万円の減額をお願いするものであります。

続いて、5ページをご覧ください。防災施設等整備事業でございます。長期化が予想される大規模災害時の避難所生活等の衛生環境の維持や生活用水を確保するため、マンホールトイレの測量調査設計を行うものであります。補正の内容といたしましては、公共下水道へ接続済みの4校に対する貯留式マンホール整備の測量調査設計におきまして、入札による差金等が生じたため補正を行うものであります。当初予算額の2560万円に対しまして、補正予算額として600万円の減額をお願いするものであります。

説明は以上となります。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。説明はお聞き及びのとおりです。

これより質疑に入ります。

ご質疑等ありましたら挙手にてご発言願います。

○ 豊田政典委員

5分の4の二つ目の住宅等耐震化促進事業のうち、説明にありました沿道建築物を補助ではなくて、全額自費負担で施工ということなんですけれども、どういったところから全額自費にしたのか、補足をいただきたいなと思います。

○ 江川危機管理室室付主幹

危機管理室、江川です。

事業者からお伺いしている中では、建て替えに対して補助等を受け取っていると時期が合わないということで、全額自費で行うという形でご回答をいただいております。

○ 豊田政典委員

補助を受け取るのに時間がかかってしまうので、建て替え計画に間に合わないということですね。そんな時間がかかるものなんですか。

○ 江川危機管理室室付主幹

こちらの業者のほうで、診断、計画、そして工事と、これから全てをやっていく予定をしておりましたのが、どうしても補助となりますと、段階を踏んでやっていただかなくてはならないもので、それに対する時間がちょっと足りないという形で聞いております。

○ 豊田政典委員

分かりました。

○ 森川 慎委員

市民総ぐるみ総合防災訓練なんですけど、減額は分かって、中止にさせていただいたのも分かるんですけども、これをするのに当たって自治会がいろいろ下準備をしている中で、自治会自体の出費とかというのは、そんなのはちゃんと市で確保なり、対応というのはしてもらったんですか。ちょっとどれぐらい自治会が使っているかというのは分からないんですけど。

○ 伊藤危機管理室長

早い段階で中止の決定をさせていただいています。地元のほうにも早い段階で説明をさせてもらっていますので、自治会で負担されているものは何もないというふうに認識しています。

以上です。

○ 森川 慎委員

分かりました。そういうことならいいと思うんですけど、また今年度もということもあるもので、次のところでも出てくるかもしれませんが、そういう持ち出しにならんようにだけ気をつけていただきたいなと思いますので、要望しておきます。

以上です。

○ 樋口博己委員

先ほど桜地区と言われましたけど、今年度中止になって、令和3年度は桜地区でやるのか、その確認だけ。

○ 伊藤危機管理室長

後ほどご説明をさせていただこうと思っていたんですけども、中止と書かせてもらっていますけど、実は延期という形で、来年度も桜地区でという形で考えております。

以上です。

○ 荻須智之委員長

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

(なし)

○ 荻須智之委員長

それではご質疑もないようですので、これより討論に移ります。討論がありましたらご発言願います。

(なし)

○ 荻須智之委員長

討論もないようですので、分科会としての採決を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

なお、全体会へ送るか否かは採決の後にお諮りしますが、よろしいですか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

それでは、反対表明がありませんでしたので、簡易採決とさせていただきます。

議案第123号令和2年度四日市市一般会計補正予算（第10号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第14目防災対策費については、原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

ご異議なしと認め、本件は可決するべきものと決しました。

続きまして、全体会へ送るべきとする事項の確認を行いますが、いかがでしょうか。

(なし)

○ 荻須智之委員長

なしのお声がありましたので、それでは、全体会送りはなしとさせていただきます。

[以上の経過により、議案第123号 令和2年度四日市市一般会計補正予算（第10号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第14目防災対策費について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 荻須智之委員長

続きまして、新型コロナウイルス感染症に伴う市主催行事、全市的行事の実施・延期、中止等の状況について報告を受けたいと思います。

ただいまの補正の中に出てきたもの以外にもあると思いますが、資料の説明をお願いします。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室長の伊藤でございます。よろしく申し上げます。

総務分科会資料につきまして、ご説明をさせていただきます。タブレットのほうお戻りいただきまして、04総務常任委員会、012危機管理監追加資料の8ページからになります。

9ページをご覧ください。3点のうち2点は、個別事業調書として地域防災取組支援事業でございます。うち1点目は、防災大学等による人材育成事業となります。8月決算議会でもご説明申し上げましたが、前期分の防災大学を中止し、後期に防災・減災研修といたしまして、オンラインを併用して4回に規模を縮小して実施したものであります。予算額170万1000円に対しまして、決算見込額30万円となったものです。

2点目は、ハザードマップ作成（三滝川・海蔵川水系）の事業です。地域の方々の参加人数を制限しながら、グループワーク時にはマスク、フェースシールドを着装するなど、感染防止措置をすることで、規模を縮小して実施したものであります。予算額2348万5000円に対しまして、決算見込額2276万5000円となっています。

もう一点は、先ほどの補正減額でご説明いたしました防災訓練事業、市民総ぐるみ総合防災訓練でございます。準備段階における緊急事態宣言により調整が困難になったことと、不特定多数が参集するため安全性が確保できないと判断して、次年度への延期とさせていただいたところです。

説明は以上となります。

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。説明はお聞き及びのとおりです。

ご質疑のある方は挙手にてご発言願います。

○ 森川 慎委員

市民総ぐるみ総合防災訓練が、令和2年度は中止って決定したのは何月かなというのと、来年度もひょっとしたらということもあるもので、その辺の判断を下す時期というのが今分かっていたら、お伺いをしておきたいんですけど。

○ 伊藤危機管理室長

令和2年度につきましては、内々では早い段階で、先ほども申しましたが、4月の終わりぐらいにはもう決定させていただいていたんですけども、7月の防災会議に諮る内容でもございましたので、正式には7月という形になってございます。令和3年度につきましても、早い段階で意思決定をさせてもらおうと思っておりまして、日程も大体決まっているため、夏ぐらいまでにははっきりさせていただこうというふうに思っています。

以上です。

○ 森川 慎委員

よく分かりました、コロナ禍でできないのはしょうがないと私も思います。それでも、自治会の人とか、この間も回覧板でこんなのをやりますって回っていたところなので、いろいろ動いている方もいると思うので、柔軟に対応いただいて、なるべく早く決断していただいたほうが私もいいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

ハザードマップ作成で、規模を縮小して実施して、予算規模を見るとそれほど差額がないんですが、何を縮小して七十数万円のマイナスになったのか。

○ 伊藤危機管理室長

ハザードマップ作成のワークショップに参加される市民の方々、地域の方々を、密にならないように、例年よりも少し少ない人数で来ていただくような募集の仕方をさせていた

だいたというところでございます。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

そうすると、参加した市民の参加費ということか。市民が減ると、何でマイナス七十何万円になるのかということを知っているの。

○ 伊藤危機管理室長

参加していただく市民分の資料を見込んでおりましたので、その数が減ったというところでの減額でございます。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

これ、せっかく参加しようとする意思があった人に、資料ぐらひは配付してやってもよかつたんじゃないのかなと思うんだけど。今の説明だと、資料代でしょう、マイナス72万円というのは。

○ 伊藤危機管理室長

危機管理室の伊藤です。

今年はこれだけの人数という形で限らせていただきましたので、参加したい方がいらしたかどうかというよりも、初めから制限させてもらったという形です。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

それが72万円ということなんですね、これは資料代ということなんやね。了解しました。

○ 萩須智之委員長

よろしいでしょうか。ほか、いかがでしょうか。

(なし)

○ 荻須智之委員長

では、ほかにご質疑もありませんので、本件はこの程度といたします。

10 : 17 休憩

10 : 50 再開

○ 荻須智之委員長

それでは、時間になりました。

これより政策推進部に係る議案の審査に入ります。

まず、部長よりご挨拶をお願いしたいと思いますが、2月12日に開催されました委員会において、2月17日に国から新型コロナウイルスのワクチン接種に関する説明があり、その内容によって、今後の方針も定まってくるという趣旨の答弁がありました。2月17日の説明を受けた本市の方針などについても、簡単にご報告いただきたいと思います。

よろしく申し上げます。

○ 佐藤政策推進部長

おはようございます。では、昨日に引き続きよろしくお願いたします。

私ども、今回、令和3年度当初予算に加えまして、この令和2年度の補正予算、それから、令和3年度分の補正予算と、三つの予算がございますので、よろしくお願いたします。

先ほど委員長からもお話がございました、新型コロナウイルスのワクチンの関係でございますけれども、2月9日の議案聴取会の際には、2月17日に自治体向けの説明会がございますので、そこでもう少し詳しいことが分かってくるかなというお話をさせていただいたかと思いますが、残念ながら、この2月17日の説明会の中では、あまり根本的なところに関わるような新たな情報はございませんでした。

ただ、最近、本当にここ数日の間に、ワクチンがどの時点で、どれぐらいに入ってくるのかなというのが少し明らかになってまいりましたので、そこら辺をちょっとご説明させていただきますと、今、医療従事者向けのワクチンは県のほうで調整していますので、置

いておきまして、市が担当いたします、高齢者向けのワクチン、こちらのほうは4月5日から入荷というか、多分、国のほうが送り出すということだと思っておりますけれども、それが入ってまいります。

4月5日の週、それから4月12日の次の週、それから4月19日の次の週、この3回に分けて、まずは一部が入っていきますということで通知が来ておりますけれども、かなり数は少ないです。4月19日の週までの3回に分けて入ってくる分は三重県全体で約1万人分ぐらいにしかありません。1箱195バイアルというのが言われておりますけれども、全てで22箱分しか入ってこないということです。

22箱ですと2万回分ぐらいになるんですけれども、ちょうど2回分打たないといかんとということで、1回分は残しておかないといけないという想定ですので、三重県全体で約1万人ぐらいの分が入る程度でございます。

それをどういうふうに配分するのかということにつきましては、今、三重県のほうが調整をいたしておりますけれども、市としてどうしてくれと。どこの自治体も、多分うちに早くくれという話になろうとは思っておりますけれども、何せそれだけしかございませんので、県のほうがどういう判断をしてくるかなというのは、またここ二、三日のうちには、ある程度決まってくるのかなと思っております。

その次の4月26日の週からは、一応全ての市区町村に行き渡る量を配送したいということで、今聞いてございますけれども、ただ、それは十分に満足いくだけの量が入るかどうかについては、これは全くまだ分かりません。ほんの少し入ってきても、全ての29市町に入れば、全部行き渡ったということにはなりますので、その辺りはまだまだこれからという格好になってこようかと思っております。

また、接種の方法のほうですけれども、前は集団接種会場を中心に今進めておるということを申し上げましたけれども、併せまして、今、個別接種のほうについても、いろいろと医療機関等へのアンケートなどを医師会にもやっていただいております、そちらのほうについても今並行して作業を進めてございます。ただ、それもいつからできるかについては、今のところ、ちょっとまだ申し上げられないというところでございますので、ある程度決まってきた次第、それは報告をさせていただきたいなと思っております。

今、ちょっと大きく言えるのはこれぐらいかなということで、また後ほど、ワクチンに関する予算等も計上してございますので、そのときにでも、またご質問等ございましたら、受けさせていただきたいなと思っております。よろしく申し上げます。

以上です。

○ 荻須智之委員長

ということは、市にどれだけ入るかということは、全くまだ未定と思っていたほうがいいというぐらいですね。

○ 佐藤政策推進部長

まだ未定ですね。

議案第70号 令和3年度四日市市一般会計予算

第1条 歳入歳出予算

歳出第2款 総務費

第1項 総務管理費

第1目 一般管理費中秘書国際課、東京事務所、新型コロナウイルス感染症対策室関係部分

第8目 企画費

第11目 国際化推進費中秘書国際課、政策推進課関係部分

第8款 土木費

第5項 港湾費

第2条 債務負担行為（関係部分）

○ 荻須智之委員長

それでは、予算常任委員会総務分科会として、議案第70号令和3年度四日市市一般会計予算のうち、政策推進部所管部分についてを議題といたします。本件については、議案聴取会において追加資料の請求がありましたので、資料の説明を求めます。

○ 田中政策推進課長

よろしくお願いたします。政策推進課長、田中でございます。

さきに開催していただきました議案聴取会での追加資料請求に関しまして、まずは説明させていただこうと思います。ファイルの在りかですが、今見ていただいているフォルダ

一の09、2月定例会議会、04総務常任委員会のうち、013政策推進部（追加資料）というファイルを開いていただけますでしょうか。

まず、表紙が出まして、めくっていただきますと目次となっております。まず、19ページまでが当初予算の追加資料になります。目次の21ページとなっているところから令和2年度の補正予算になりますので、まずはその手前までの資料をちょっと説明させていただく形になります。では、それぞれの項目について説明させていただきます。

目次をめくっていただいて、3ページになります。3ページは東京事務所の資料となりますので、今ちょっとリモートになっております東京事務所のほうから説明させていただきますので、ちょっとそちらに引継ぎます。お願いします。

○ 森下東京事務所長

それでは、資料請求のありました追加資料について、ご説明させていただきます。まず、森川委員から首都圏におけるシティプロモーション推進事業費の内訳というふうなことで、資料請求いただきました。まず、資料3ページでございますが、大きく三つのカテゴリーということで、都市イメージ向上事業の開催と、物産観光事業の開催、それから、ホストタウン活動を通じた四日市市のPR、この三つでございます。

まず、1番目の都市イメージ向上事業の開催につきましては、四日市市の旬な魅力の発信につながるテーマを設けてイベントを開催するというので、四日市STYLEイベントということで90万円の予算をお願いしております。三重テラスのイベントスペースを活用し、パネル展示や映像を中心としたイベントを実施します。今回のテーマとしては、三重とこわか国体・三重とこわか大会、あすなろう鉄道とB-1グランプリをテーマとして取り上げております。

続きまして②でございますが、発信、体験、購入ということで、まちをフィールドとしてワンストップで展開するイベントを開催するというので考えております。まず、東京まるごとプロモーションというので、80万円の予算を計上させていただいております。大型のビジョンによるシティプロモーション映像の放送、近隣にあるカフェでの食の提供、百貨店での販売ということを同時期に実施して、見る、食べる、買うということで、四日市市を認知していただくイベントを開催するというので計画をしております。

続きまして、2番目の物産観光事業の開催でございますが、地場産品の販売、観光PRに向けたイベント開催ということで、物産・観光フェアで70万円の予算を計上しています。

霞が関や品川など、首都圏における物産・観光イベントを四日市市と津市の合同、または四日市市が単独で開催するというふうに考えています。また、東海地域、愛知県や岐阜県、3県8都市が連携してイベントを開催して、広域的なプロモーションを実施する予定をしております。

次でございますが、四日市ふるさと納税フェア in 企業オフィスということで、首都圏にある四日市市にゆかりある企業のオフィス内に、コロナ禍に対応したふるさと納税PRコーナーを設置して、地場産品や返礼品を通じて四日市市へのかかわりをさらに深めてもらうというようなイベントを予定しております。

最後でございますが、ホストタウン活動を通じた四日市市のPRということで、カナダ体操代表チームが四日市市で事前キャンプを行うということを契機としまして、四日市市をPRしていこうというふうに考えております。

ということで、シティプロモーション事業費についての内訳はこのようになってございます。

次、樋口委員からいただきました広報活動というふうなことでございますが、4ページでございます。まず、新型コロナウイルス感染影響下における新たな取組ということで、特に民間ではテレワークで、訪問というのが難しくなるという中で、できることをということで、四日市市の旬のトピックを四日市東京事務所ニュースとしてフリーペーパーを発行して、身近に感じていただけるということをしている。

今後でございますが、東京事務所に、まずSNSアカウント等を設置して、首都圏に在住する四日市市に関係ある人とのネットワークを構築し、四日市市の情報を提供するとともに、四日市市への思いや意見などを聞き集めていきたいなというふうなこともしていきたいと考えております。

また、四日市市にゆかりのある企業や地場産品の販売や、地場産品を扱っている企業などを積極的に訪問して、つながりを深めていくと。一応コロナ禍で対面できないという制約はあるんですけども、つながれないというわけではなくて、つながりにくい中でつながりは探っていきたいなというふうなことで考えております。

資料の説明は以上でございます。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

引き続き、政策推進課にご請求いただいた資料について説明させていただきます。めくっていただきまして、5ページ以降になります。5ページは豊田政典委員よりいただきました、令和3年度の当初予算において、本市の目指す姿はどのようなものかというようなところでいただきました。ちょっと苦慮したんですけれども、総合計画の概要版の基本構想についてまとめたページのほうから抜粋させていただいた形になります。

総合計画の実現をやはり目指すというところが、予算の目指すところと我々は理解してやってございます。中段のほうに将来都市像というものが四つ掲げてございます。市長の所信表明におきましても、それに基づいて説明させていただいたところです。1番が子育て・教育安心都市、2番として、産業・交流拠点都市、3番として、環境・防災先進都市、4番、健康・生活充実都市という形になってございます。その下に、また水色でちょっと横長に10年後の未来（目指す姿）というところでございます。人口、社会、都市、生活、産業という、それぞれにおいて総合計画で目指す姿というところで書いてございます。

1個1個掘り下げることはございませんけれども、都市の姿というのは総合計画に位置づけてございますので、それを推進計画という形で重点的な事業に紐づけまして、各部局において展開していただくというのが四日市市のありようというところで、事業構築はそのようにしてございます。

次、めくっていただきまして、6ページでございます。森川委員よりご請求いただきました総合計画推進事業費の内訳というところでございます。総合計画推進事業費という形でうたっておりますけれども、私どもの内部作業的には推進計画事業をどう推進していくかということで、12月定例月議会にもお示しさせていただいておりますけれども、推進計画のローリングというような庁内調整作業というのが、時間をかけているところでございます。

ただ、そちらに関しては特に予算が要るということではございませんので、臨時的な調査研究や、印刷等に対応するための経費や、あと総合教育会議というものも所管しておりますので、それに係る事務費を予算化しているところです。319万7000円という形ですが、その内訳をざっと申しますと、①が政策課題の調査研究費ということで、200万円というところです。

あと2番が、今回はハンドブック印刷というのを見込んでおりますけれども、印刷製本費で100万円、あと③が総合教育会議に係る議事録の速記、反訳料という形ですけれども、19万7000円という形で、その合計が冒頭に言った金額という形になります。

次、めくっていただいて7ページとなります。村山委員よりご請求いただきました産学官連携推進事業に係る令和元年度、令和2年度の取組というところです。8月定例会議会においてもちょっと説明させていただいているので、重複するところがあって恐縮なんですけれども、まず1番ということで、三重大学北勢サテライトの活動についてということで、令和元年度における主な活動を、例えばセミナーの開催であるとか、見学会とか、中小企業向けの支援であるとかというようなところをちょっと列記させていただいてございます。

めくっていただいて、8ページの途中まで、講座とか、そういう連携というところを取り上げさせていただいてございます。8ページの中段の(2)ということで、じゃ、今年度における活動状況というところで、また年度が終わった時点で報告は私ども、取りまとめまして、サテライトから報告を頂戴するわけでございますけれども、①としまして、何分、今回、新型コロナウイルス感染症対策のための対応ということで、非常にちょっとその辺を注意しながらセミナーや研究会を開催しておるといふふうに、経過報告をいただいております。

オンライン形式という工夫をしたことによって、ふだん来れない人がより来れるというようなところもプラス要因ではございますが、いろいろ注意をしながら、ノウハウを蓄積しているというところでございます。

あと、②として、今年度より北勢スマート農業研究会というものを設置しましたよというような途中報告をいただいております。IoTシステムというのを、しかも比較的安価なものを入れることによって農業のほうに生かしていきたいというような研究会を設置し、ちょっと関心のある方にその辺の勉強会を開いているというところでございます。

8ページの下段になります。2番として、産学官連携における調査研究というところで、これも決算のときにちょっとご説明したところですが、令和元年度実績というところは、東京大学との連携の中で市内製造企業におけるIoT化、AI導入促進調査研究ということで、実績がございます。

めくっていただきまして、9ページのほうで、調査研究内容としまして、市内の製造企業における経年変化について調査研究した上で、IoT化についての取組状況のアンケート、それからの提言ということでございます。概要版につきましては、計算時にちょっと配付させていただいたところでございます。

そして(2)としまして、令和2年度実施中の調査研究としまして、現在取り組んでお

られる研究テーマでございますが、四日市市内の土地利活用方法に係る経年変化に関する研究ということをご今年度はさせていただいているところです。ちょっとコロナ禍でございますが、なかなかフィールドワークというのがしづらいというところでございますが、過去の住宅地図情報等を、データベースを駆使しまして、経年変化を分析していき、本市の特徴的なところを見いだしていただいて、今後の課題等も、その研究成果から得られればということで、今やっております。

めくっていただきまして、10ページになります。またこれは項目が変わりまして、委員長から資料請求いただきました新図書館でございます。中心市街地拠点施設における駐車場需要の検討ということでございます。駐車場需要ですが、（１）令和３年度事業に基本計画策定というところで、スターアイランド跡地に関しまして、基本計画策定費を、現在、予算として上程させていただいておりますけれども、その検討の中で駐車場需要の対応策についても行ってまいります。

それで、これまで行った検討を踏まえて、さらにそれを精査していくという形になりますが、これまでの検討の振り返りというのが（２）以降になります。（２）が本庁舎東側広場を仮の立地場所として想定した際というところでございます。そこに枠囲みでございます、需要想定というのを休日時のピーク対応を365台、平日のピーク対応というのを260台というふうに中心市街地拠点施設整備基本計画策定の際に試算をいたしました。

それに関しまして、対応策というところで、その当時の東側広場案の中では、市営駐車場の台数のキャパのほうで、ある程度また確保するということであるとか、思いやり駐車場の確保であるとか、くすの木パーキングを一部使えないかとか、あと休日イベント時など、需要が多く見込まれる日についての中心市街地の民間駐車場との提携はできないかというような対応策を、アイデアとしてその当時にまとめているという状況でございます。

めくっていただきまして、11ページでございますが、（３）が、先ほどの（２）を踏まえた上で、３か所案を検討した際の考え方ということでございます。本庁舎東側、JR四日市駅、近鉄四日市駅直結という、その三つを候補地として検討し、令和２年１月20日に議員説明会資料として提示させていただいた部分の抜粋でございます。

基本的には、先ほどの（２）を踏まえながら、それぞれの考え方をまとめさせていただいていると、想定も365台というところで検討したという資料となっております。

めくっていただきまして12ページになります。12ページ以降が四日市港関係というところで、樋口委員よりご請求いただいた一連の資料となります。まず一つ目が、四日市港霞

ケ浦地区北埠頭の整備に向けた取組ということで、ここ最近の取組について経年的にまとめさせていただきます。

1番としまして、四日市港霞ケ浦地区北埠頭の整備を進める会というもので、関係者一同このような団体を組みまして、要望活動をしていくという格好です。

12ページの下段ですが、ウェブフォーラムというのを、令和2年9月14日に商工会議所の1階のホールで開催いたしました。

めくっていただきまして、13ページです。要望活動の実績というのを年表風にまとめさせていただきます。令和元年10月7日、令和2年2月6日、令和2年6月26日、令和2年10月26日、令和3年2月8日というところで、郵送とかオンラインという状況を余儀なくされたときもありましたけれども、このような実績を積み重ねてきたという形でございます。

めくっていただきまして、14ページになります。4番と書いてございますが、国のほうで令和2年度の事業化検証調査費というのを盛り込んでいただきまして、調査研究を今年度進めていただいているというところで、中部地方整備局四日市港湾事務所の資料を、ちょっと小さいですけど、抜粋で載せさせていただいたというところですよ。

14ページの下段の5、今後についてと、ここは肝心なところかと思えますけれども、国土交通省より、このごく最近の話でございますが、令和3年2月26日付で、令和3年度予算に向けた新規事業採択時評価手続、そういう手続にこの北埠頭の事業が着手されたというところですよ。

新規事業を始めるに当たっては、事前の評価をするというのが国土交通省の基準の中であるそうございまして、その中にこの事業は入っているというところですよ。我々としては、これは手続に乗っていつているので、非常に期待を持っているというところですよ。この下段の3行書いてございますが、引き続き新規事業化を要望するとともに、事業化になりましても、さらなる進捗に向けてこのような要望活動とかを継続していきたいという思いでございます。

めくっていただきまして、15ページになります。これは、12月の総務常任委員会協議会のほうでもお示しさせていただきました、みなとまちづくりプランの案に関しまして、意見募集をこの2月行いまして、先日締め切ったところですよ。2月1日から2月28日まで意見募集というのを行いまして、ご意見を頂戴しました。下に、5番、結果というところでございますが、14名の方からご意見をいただきました。

内容については、今、一つの意見書の中にもいろんな論点がございますので、今のところ意見を整理している途中でございます、それでちょっと小分けにして項目を数えていくと60件ほどになろうかと思っております。

その主な意見というのは、まとめた状態で委員各位にご提供するべく、今から作業をするところでございますけれども、基本的には、私どもの印象といたしましては、応援的な意見をいただいているような思いでございます。一つが、やはり現状がそういう親しまれる状況になっていないというご指摘をいただいているようなご意見というのが、一連あるかなと。

それと、じゃ、それでにぎわいを生み出していくためには、こういうことをやったらいいんじゃないかと、人が立ち寄りやすいような、例えば整備が必要じゃないとか、それを推進していくような、例えば公共なり、民間なり、そういうような活動が要るんじゃないか。あと、ハード整備みたいなものも、やはりあるといいと思うというところ。

あと、こちらでも議論はありましたが、ゾーン分けについてやはり明確にしなければいけないというところのご指摘もあったかと思えます。そういったところをまた、現在、精査しているところでございます。

めくっていただきまして、16ページになります。四日市商工会議所主催、JR貨物四日市駅ツアーについてというところです。これは、ちょっと私どもが運営に携わっているわけではないものですから、商工会議所様のほうにちょっと資料をいただきまして、ビジュアル的な資料もいただきまして、ちょっとまとめさせていただいた受け売りの資料になります点、ご容赦ください。

順番に申しますと、主催としましては、四日市商工会議所が主催していただきまして、企画運営のほうは、大ナゴヤツアーズ実行委員会というところをお願いしたというところです。昨年11月6日、金曜日の午前9時から12時まで開いたと。JR四日市駅のほうで開きまして、定員20名のところ、20名の参加があったというところです。

ツアーの概要というのは、こちらの中段6番に書いてあるようなところで、JR貨物の駅長さんの案内でJR貨物の魅力に触れるというところで、末広橋梁を見られたり、DD51のディーゼル機関車のほうを見ていただいたりというところで、JR貨物四日市駅の魅力を見ていただくというところで、ツアーのコース的なところは7番に書いてあるとおりでございます。

参加の方からは、非常に楽しかったというようなお声をいただいております。これだけで

はちょっと分かりにくいものですから、写真もくださいというところでいただいたのが、17ページに書いてある当日の様子というところで、こういった車両の乗車体験等もしていただいておりますというところです。

あと18ページ、19ページがその募集チラシというところです。JR貨物四日市駅ツアー以外にも、四日市の魅力を感じていただくようなツアーというものを、このような形で一連の事業として、していただいておりますというところです。そのチラシの裏面のほうが、19ページに書いてあるような形になってございます。

追加資料についてはここまでです。以降は、ちょっと補正予算のご説明のときに使いますので、一旦ここまでで説明を終わらせていただきます。

以上でございます。

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。説明はお聞き及びのとおりです。

なお、今回も新型コロナウイルスの影響を考慮し、東京事務所長の当委員会の出席は控えいただくこととしました。Zoomを活用して東京事務所と通話をつないでおりますので、それをもって東京事務所への質疑等を行うこととします。質疑に当たっては、ふだんどおりマイクに向かって発言していただければ、東京事務所にも発言内容が伝わるようになっておりますので、委員の皆様はしっかりとマイクに向かって発言いただくとともに、東京事務所への質疑であることをはっきりと表明していただきますよう、お願いします。

また、東京事務所へのお願いになりますが、通信環境等の影響で発言が聞き取りにくいことがあれば、その旨ははっきりと申していただきますようお願いいたします。

それでは、質疑に入ります。ご質疑等がありましたら、挙手にてご発言願います。

○ 森川 慎委員

東京事務所、資料をいただきましてありがとうございます。シティプロモーションに関していろいろやってもらっていただいたんですが、これは例年と何か変わっているんですかね、予算的な面とか。私は、同じようなのが踏襲されてるように受け取るんですが、何か変わったことがあったら伺いたしたいと思います。

○ 森下東京事務所長

変わったところといいますと、やはりコロナ感染症対策というふうな観点を重視しておりますので、人が集まっていたとというのはまだ難しいかなというふうに考えております。したがって、映像とか、展示とか、そういうふうな形を駆使したものでいこうと思っています。

それから、テーマにつきましては、やはり、シティプロモーション部で上げているコンテンツを基に、東京に合うような形でイベントの内容を選ばせていただいております。

以上でございます。

○ 森川 慎委員

予算的には、例えば三重テラス云々とかでも、同じようなことをここ数年続けてみえると思うんですけど、それも同じ金額ですか、計上してもらったのは。

○ 森下東京事務所長

金額につきましては若干落としてあります。というのは、講演なんかの場合ですと、講師のことがありますので、そういう部分は省いて、主に展示、映像等の予算というふうな形で割り振ってありますので、若干落としてはあります。

以上です。

○ 森川 慎委員

分かりました。大型ビジョンというのは、どこのビジョンなのでしょう。またアルタ前でしょうか。

○ 森下東京事務所長

東京事務所の森下でございます。一応大型ビジョンとして、新宿のアルタビジョンを想定しております。

以上です。

○ 森川 慎委員

これまでも、似たようなことはしてもらっているんですけど、その効果とか検証というのは、東京事務所としてと言っていいのか分かりませんが、こちらではされているんです

かね。こんな効果があったから、来年もこれをしようとか、そういう事業展開をされているのでしょうか。

○ 森下東京事務所長

新宿のアルタビジョン、当初、新宿駅の東西交通ができるようになったということで、人の流れができる場所というふうなことでやりました。その中で、効果的にどのようなものができるのかということ、ユーチューブで四日市市のホームページを見ていただいたとか、ユーチューブの動画を見ていただいたかという統計を取っております。

若干、効果はあったというふうなことで、今度はさらに大型ビジョンで映像を映しながら、近隣のカフェで四日市市の物産、産品、お酒も、産品も含めて、何か食べるものができる。それを近くの百貨店で買うことができる。こういうような、見る、食べる、買うというふうな形に展開していきたいなということで、今、計画をしているところでございます。

以上でございます。

○ 森川 慎委員

全体の効果を教えてほしいんですけど。今は大型ビジョンに関してお話をいただきましたが、トータルとして、三重テラスもそうだし、企業オフィスというのは、味の素にまた行ってもらうのかな、ちょっと分かりませんが、この辺のいろんなことをひっくるめて、四日市市民、あるいは四日市市にとってどういう効果が出たのかということをお伺いしたんですが。

○ 森下東京事務所長

効果検証というところまで行くと難しいという感覚はあるんですが、やはり、四日市市についていろいろ知っていただく機会にはなった。これは、どういうふうな効果があったかという検証ができたかというのは、ちょっと考えていかなければいけないかなと思っておりますが、まず、知ってもらうということで、何度も何度も繰り返し四日市市をイメージ、PRしていきたいというふうなことを考えております。

それから、企業の中でやったものは昨年度もあるんですけども、これについては、やはり四日市市の産品に触れていただきまして、それをお買い求めいただくというふうなこ

と、それからふるさと納税の額が上がったとか、そういうふうなことに表れているものではないかなというふうに考えております。

以上です。

○ 森川 慎委員

とおっしゃるんですけど、果たして本当に意味があるのかなって私は常々思っていますし、シティプロモーション部に対しても同じようなことを問いかけているんですけど、効果はと聞くと、分からんと、はっきりしたことはちょっと言えませんという答えが返ってくるんですね。市民の税金を投じていただいて、使ってもらっているからには、やはりこういうことができたんだ、こういうことが実現したんだということは常に意識して持つておいてもらわないといけないし、何ができたということは、情報として伝えてもらう必要があると思うんですけども。

東京事務所長に聞くのは酷かもしれませんが、その辺の感覚とか、考え方というのはどうお考えになっておりますでしょうか。

○ 森下東京事務所長

効果というのは、シティプロモーションでございまして、まず四日市市の認知というふうなところから進めていっている。これは同じことを繰り返しておるかというふうなことで思っております。それで、今日、樋口委員からご質問のありました広報活動という部分があるんですが、その部分の中にも、新たに四日市市に関係ある人の意見とか、声を吸い上げていきたいなというふうに考えております。

やはり、四日市市から首都圏に来ている方がいる。その人たちとつながりを深めながら、その人たちの持っている意見を四日市市に返していきたいなというふうなことで、そのつながりの輪を広げていこうというふうに考えているところでございます。

確かに効果というのは、私も説明が難しいんですが、そういうふうな形で地道に声を集めていきたいなというふうには考えております。

以上です。

○ 森川 慎委員

いろいろ考えてもらって、当然、苦勞しながらやられているのは私も十分理解するし、

四日市市の知名度を上げたいとかということを考えてもらっていることも分かるんですけども、やはり税を投入してこういうことをしていくんですから、どういう目的を果たしていくのかということは常に持っておいてほしいし、終わった後には、こういうことが達成できましたということも、胸張って論理的に説明できるような状況を常に考えておいていただきたいと思います。

併せて、このコロナの状況の中で、なかなか外から人を呼び込むということがどうだというような時期に、新宿で大型ビジョンでプロモーションして、四日市市に来てくださいという宣伝が本当にいいのかという声を、何人かの市民とかから言われましたので、そういったところも意識をしておいてほしいと思います。

もう一つ、ちょっと関連して、東京事務所は、プロモーションをしてもらうのが分掌なんですけど、いろいろ次の2番のところに、中央省庁であるとか、民間企業から情報を取ってくるような大きな役割も求められているんですけども、このコロナ禍で訪れられなくなっているというような話なんですけど、この辺は実際のところどうなんでしょうか。

本来、私、東京事務所に求められているのは、国とのパイプ役であるとか、いろんな先回りして情報を集めてきて、市に還元してもらおうと、こっちのほうが大変な役割だと思っているんですけど、その現状をお伺いしたいんですけど。

○ 森下東京事務所長

ちょっと質問から外れるんですけど、まず最初に、大型ビジョンでというふうな形で、来てもらうというふうなことのお話をいただきましたが、まず来てもらうというふうな即決でつながるといふことにはちょっと考えておりませんので、四日市市を応援していただく人口を増やそうというふうなことを考えております。四日市市を気にかけていただける人口を増やしていくために、いろいろな展開をしていきたいなというふうには思っております。

それから、森川委員から質問がありました、シティプロモーションより、中央省庁からの情報収集。もちろん、これが大きな我々の任務であるというふうには思っております。ですので、今、中央省庁にも行けないという事情がありますので、その中でも、先ほど東京事務所ニュースというふうな形で、四日市市の情報を先に流しながら、つながりを深めていくというふうには考えております。

また、企業にもやはり、緊急事態宣言中につきましては、やはり会えないというふうな

ことがありました。ただ、これからは、この今やっているZ o o mとかというふうなこともありますので、そんなあらゆる手を使いながら、お話をできるような形で持っていきたいなというふうに思っておるところでございます。

○ 森川 慎委員

やめようと思ったけど、大型ビジョンのお話をされたんであれですけど、どう思っているかというのは、それは当然あるとは思いますが、実際に四日市市に住んでる方からどう映ってるかということも考えてほしいということですよ。この社会情勢の中で人をいっぱい集めてきたらあかんよねというような話をしている中で、東京で宣伝する。議会でも、シティプロモーションの目的は何やといたら、最終的には四日市市に来てもらって、住んでもらえれば最高ですねというような答えをする中ですから、それは、東京事務所長がそうやって思っているのは分からんではないですけども、やっぱりどうやって市民に映っているのかなということをもうちよっと考えていただきたいというのが思いですので、お願いします。別に議論するつもりはないんですけど。

○ 豊田政典委員

東京事務所のシティプロモーション事業に関連して、今、森川委員とのやり取りというのは、これまでもやってきましたし、最近では決算審査の中で、政策推進部、それからシティプロモーション部で各委員が別々に同じことを指摘してきました。その中で、結局何かというと、東京事務所が行っているシティプロモーション事業というのが、事業目的がはっきりしない。それから、中期的な事業計画というのがなさげであると。それから、効果検証というのがほとんどできていない。それぞれそういうことだったと思います。

決算審査のときも政策推進部を先にやって、シティプロモーション部は後でやったんですけど、僕の印象ですけどシティプロモーション部はまだましでした。段階的に事業展開をしていくし、目標としても、まずは認知度を上げる。それから、交流人口を増やす。最終目標は、さっき森川委員が言われた定住人口を増やす。これに結びつけていくためのシティプロモーションであるという、割と明確な答えをいただいているんですけど。

ところが、先にあった政策推進部の答えは、事業展開の最終目標は何だと聞いたら、最終目標を示すのは難しい。つまり目的なき事業を展開しているとしか受け取れないわけです。それから、もっとついでに言っておくと、東京事務所のシティプロモーションと、

シティプロモーション部の似たようなことを並行してやっているけど、うまく連携できているのかというのを質問しましたら、全般的にはうまく機能していると捉えている。ただし、一方で、イベント等の機会以外は連携がおろそかであった可能性もありというようなことも言っている。こんなようなことを、決算審査のときにも森下所長にも言ってきたと思うんですけど、効果検証、今日も曖昧な答えでしたが、10月の時点では、答えは一応あって、アンケート調査だったかな、今まであまりやっていないけれども、手法を検討して検証もやっていきたいという答えなんですけれども、さて、半年たちまして、新年度に向けて、今、幾つか言いましたけれども、これについての考え方ね。

もっと決算審査のときには、確かにシティプロモーション部と政策推進部の両方置いているけど、どうも別々の道を走っているように思えてならない部分があるので、統合したらどうだという話もしました。そういったことを全般的に、今こそ見直すべきときじゃないかと私は思ってますが、どうでしょう。

○ 森下東京事務所長

今、豊田委員がおっしゃられたシティプロモーションのことでございますが、決算審査のところでも私も聞かせていただいております。その後、シティプロモーション部との連携のことというのも、ここへ来てからいろいろな感じでおりました。その後、いろいろ連携をしておりますし、事あるごとに連携はしていると思っております。

それから、また、目的とシティプロモーションということですが、一応、参考の資料というのは作っておりますので、もし委員長がお許しいただけるのであれば、お渡しをしていただけないかと思っております。

○ 荻須智之委員長

資料配付させていただきます。

○ 森下東京事務所長

首都圏におけるシティプロモーションというふうなことでございます。目的は、先ほどシティプロモーション部とも一緒でございますが、交流人口の増加と定住人口の増加、持続的な発展に資することを目的とする。首都圏におけるシティプロモーションは、シティプロモーション部でも一緒に、フェーズ1、2、3、知る、来る、来訪というのは、同じ

ような、段階的に進めていくものであるとっております。

シティプロモーション部と展開は同じであるが、首都圏の地域特性に応じて展開していきますので、知るという、フェーズ1と書いてあるところが期間が長くなるということがあるかと思えます。その中で新しく関係人口の増加ということで、関係人口という、簡単に言えば四日市市を応援していただく人を増やしていくのがフェーズ1から2へ行くところではないかなというふうな形で、今取り組んでおります。

3番目で、シティプロモーションの方法ということで、シティプロモーション部において、地域資源を活用したコンテンツを制作していただくと。それを、年度のテーマ、認知度を知る機会に関わりながら、双方提示していただきながら、四日市市、名古屋圏、首都圏、それぞれの地域特性に合わせてシティプロモーションを実施する、このような流れの中で、今目標としましてフェーズ1、知るという機会を、もう一度目的をしっかりとしながら取り組んでいこうというふうに考えておるところです。

それから、先ほどのアンケートですが、イベントにつきましては、アンケートをなるべく取るようにしておりましたし、取らせていただきました。それを分析しながらというふうな形で考えていくんですが、やはり、来ていただく方については四日市市を知っていただいたことによって、一つのイメージとして残ったのかなと。

それから次へ、四日市市を応援していただける関係人口へと転換していくようなことを考えていきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

今示していただいた資料はそのとおりで、決算のときにはこういう答えはなかった。シティプロモーション部との連携ですけれども、事あるごとにじゃなくて、完全一致していないといけないと、僕は思っています。この三角形、ピラミッドを基に1年間、どっちがどういう事業を展開するか、そして、どういう検証をしていくか、これが完全一致していないから、事あるごとにとか、イベントごとにとかということになっちゃうので、それを全体で統括している考え方がなさ過ぎる。

効果検証についても、本当なら単年度予算なので、1年ごとの検証が必要なんですけど、私は優しいので1年とは言いません。3年に1回で結構ですけれども、シティプロモーション部と、どちらがやるのがいいのか。東京事務所の一つ一つのアンケート調査というこ

とも必要かもしれないけど、それよりも、まずはフェーズ1で知る、認知度を上げるのなら、その認知度がどれだけ上がったか、これを押さえていかないといけないと思うんです。それは東京事務所の事業であり、本庁の事業でありだと思うんですけど。

全体的な効果検証、効果というか、成果検証ですよ。こういうのが必要かなと私は思っていますが、東京事務所にはもういいです。全体的な話なので、本庁のほうに答えてほしいんですけども。だから、東京事務所は東京事務所で頑張っているのは分かるけれども、シティプロモーション部との連携があまりにも手薄じゃないか、僕はそんなふうに思っていますけど、どうでしょうか。

○ 佐藤政策推進部長

今、その効果検証についてでございますけれども、これ、当然シティプロモーション部のほうと一体となって、例えば今、委員おっしゃいましたように、知名度がどれくらい上がってきたかとか、そういうことは何らかの方法で検証はしていかならんとは思ってございますし、シティプロモーション部長とはそんな話もしております。

ただ、例えば東京事務所だけでそういったことをやろうと思うと、やっぱりそれなりに効果検証のための費用もかなりかかると思います。200万円の事業をやるのに3000万円の調査費を使うのかといったことも、それはそれでちょっと費用対効果を考えていかないといけないと思いますので、やはり何年に1回というような格好で、ある程度まとまってアンケートをやるとか、そういうことをシティプロモーション部と一緒に考えて、市全体としてどれだけ知名度が上がっていくかとか、そういうことはやっていかないといかんかなというふうに思っております。

○ 豊田政典委員

言われるとおりで、東京事務所単独でやる必要もないと思うんですけど、シティプロモーション部と合わせた予算の中で、両方合わせてどうなったか。認知度であれば、3年でどうなったか、こういったことを追っていかないと、ただやりっ放しということにされがちなので。

そのために、今現在どうなのかというのがまずないと思うんですよ。だから1年、2年、3年の目標が立てられない。認知度にすれば認知度で、全国で、世界で、どれだけの認知度があるのか。これを1年、2年、3年でどこまで上げるのか、目標もないわけですよ。

まず現在地が測れていないというところが問題なので。事業全体は、東京事務所にしろ、シティプロモーション部にしても、本会議で言っているとおり、非常に頑張っていたいただいていると思っていますし、楽しいことをやっていたいただいているなと思うけど、楽しいだけじゃいけないのでね。

事業自体、否定するつもりは全くないし、頑張っていたいただきたいなとは思いますが、その事業の結果、効果というのを押さえていっていただきたいなと。それは、シティプロモーション部でまた改めて言うておきますので、また協議して進めていただければと思います。

以上。

○ 森川 慎委員

せっかく資料を配っていただいたので、確認したいんですけど、フェーズ1、2、3としてもらいましたが、今は1やと。1から2に移る基準は何なのか。あるいは、2から3に移る基準は何なのかというのと、あと、どれぐらいの期間でこれを達成していこうというふうに考えているのかだけ確認をしたいんですけど。分からんなら、分からんで結構ですけど。

○ 森下東京事務所長

首都圏におけるシティプロモーションのフェーズでありますので、来る、フェーズ1からフェーズ2へ移るのは、訪れてみたいなというふうなことでありますので、割合短期間にできるかなというふうに考えておりますが、フェーズが上がってくるにつれて非常に難しい、期間が必要であるというふうに認識しております。

まずは知るという機会の創出、フェーズ1というのは、まだまだだなというふうに考えております。関係人口の増加という、四日市市を応援したい、ふるさと納税の参加者とか、いろんなイベントへの問合せとか、そういうふうな形の判断を見ながら、知る機会から来る機会というふうな形での基準にしたいなと思っております。

年数的には、ちょっとよく分からないですけど、かなりかかるというふうに、感触では思っております。

以上でございます。

○ 村山繁生委員

東京事務所、お願いします。予算を減らしたということだったんですけれども、僕はやるなら、もっと増やしても逆にいいと思っているほうなんです。特に企業オフィス、こんなのはもっと増やしてもいいと思うし。ただ、うちの会派の中でも、昨年はいろんなイベントが中止になって、そんな中でそれだけメンバーが要るのかという意見もありました。

でも、私はそうじゃなくて、やっぱりこの時期にしかできないこと、いかに東京事務所の存在感を示すかというためには非常に重要なことと思っています。四日市市の情報を提供することも、ものすごくこれは大事なことですけれども、逆に、さっき話もありましたけれども、せつかくですから、中央省庁とのパイプ、その中央省庁の最新の情報、リアルタイムでの情報をいかに引っ張ってきて、国策に合ったような情報をこの本庁へ提供して、四日市市の政策に乗せていくかということが、やっぱり非常に、私も大事なことだなというふうに思うんですけれども、その辺の考え方はどうですか。

○ 森下東京事務所長

まず予算を減らしたというのは、それぞれのイベントの中の予算を削りながら、大きな形で割り振りをしたというふうなことでございます。今まで、一つのイベントに50万円使っていたのを20万円にしてと、そういう減らしたという意味でございます。

それから、村山委員がおっしゃっていただいたように、中央省庁とのパイプ、情報を引き寄せてくるというのが重要というのは、我々、東京事務所の役割の一つというのは先ほどお話しさせていただいたとおりでございます。

中央省庁を訪問できるような形は取っておりますとともに、この都市センターの中には各市の東京事務所がございます。そこの横のつながりから、情報を逆にいただくというふうなこともやっておりますので、コロナ禍ですので、ふだんそう密では会えないんですけど、やはり何かの機会を捉えながら情報交換というのを、逆に歩けない状態であるからこそ、そちらの情報共有というか、情報収集というのでできておりますので、その辺のところからいただいた情報を返していたりとか、助けていただいたりというふうなことはありました。

今後もう少しネットワークを広げていこうというふうには考えております。

以上でございます。

○ 村山繁生委員

常にアンテナを張ってもらって、それぞれの国策に補助金なりいっぱいあると思うんです。いかにそんなものを、予算を引っ張ってくるかということも大事なことだと思いますし、しっかり頑張っていて、存在感を示していただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

○ 荻須智之委員長

よろしいですか。ほか、いかがでしょうか。

○ 豊田政典委員

3分ものを二つやらせてください。一つは、会派から託されたんですけど、市長の所信表明、政策推進部で聞くのかどうか分からないまま聞いていきますが、議案説明の16ページにこんなフレーズがあるので、この内容を確認せよという指令なんですけど、四日市市のさらなる発展を実現するためには、市役所の組織強化が不可欠です。職員の意識改革、組織力の強化、縦割り行政を排除したチーム市役所といった市役所が認識すべき取組、職員一人一人の力を結集して力強い市役所組織の構築に努めてまいります。

チーム市役所とは何ぞやと、政策推進部でこれを答えられますか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課長、田中です。

所信表明の16ページの中で、市長としての市役所に関する市役所改革というものは、市長は1期目から打ち出しているところです。市役所が一体となってテーマに取り組むというようなイメージで述べておられるのかなと、私としては理解しております。

職員一人一人が市役所という一体感を持って、例えば自分のここの部分だけやったらいいやとか、そういうことじゃなくて、全体をちゃんと見回して、その中でどう力を発揮していくか。組織も縦割りになってくると、ある種セクトを守るみたいな、そういうような発想ではなくて、チーム市役所というような一体感を持ってほしいと、そういうところを述べている所信だろうと私どもは思っております。

以上です。

○ 豊田政典委員

ありがとうございました。私もこれを読めば大体理解するんですけど、会派で分からないという人がいるので聞きました。申し訳ない、できれば、委員長、分科会長報告のところにも今の答弁を書いておいていただいて、それをもって答えとしてほしいなど。

もう一個、秘書国際課に聞くんですけど、当初予算資料の32ページの国際交流事業の中で、国際交流事業のロングビーチ市との交流事業がずっと書いてあって、令和3年度はオンラインで交流をするんだということなんですけど、オンラインなら金もかからないので、人数を大幅に増やすことも可能じゃないかという意見なんですけど、その答えをいただきたいのと。

それから、③のその他、ベトナム、ハイフォン、カナダ、関係がある海外から訪問団を受入れ、これはどういう内容で受入れるのか。内容によっては、来てもらうほうが金がかかるので、こっちから行ったほうが安いんじゃないかという意見なんですけど、簡単に答えていただきたい。

○ 磯村秘書国際課長

まず2点、お問合せいただきました。ロングビーチ市のほうですが、オンラインでやるのならば人数も増やせるのではないかというご意見だったかと思います。オンラインですので人数に制限はないんですけども、画面に表示できる人数もございますので、そこは検討させてはいただきたいと思いますが、先方のご意向も確認する中で、そこは考慮していきたいかなと思っております。人数については、例えばTRIOなので3人だけとか、そういうふうに決めてはおりませんので、できるだけ多くの方に関わっていただけるような工夫はしたいなと思っております。

あと、ゆかりのある海外からの訪問団の受入れというのは、例えばベトナムのハイフォン市、正直、こちらから行くのに際しては、ベトナム関係であれば、恐らく商工課で予算がございまして、カナダのほうであれば、主たる予算はスポーツ・国体推進部のほうでついておりますので、私どもが担うといたしますと、向こうの代表団の方が、例えばいらしたときに、歓迎のセレモニー、例えば、歓迎夕食会ですとか、そういった市長が出席するような場合について設定をさせていただくとか、そういったところを担うことになるかなと思っております。

○ 豊田政典委員

一つ目は分かりました。ありがとうございます。

二つ目は、それはそうなんですけど、そうじゃなくて、国際交流でベトナムのハイフォン市やカナダと交流を考えたときに、課長は受け入れるだけで、私は知らないじゃなくて、本来目的があるわけじゃないですか。本来目的のために行くほうがいいのか、来るほうがいいのかというのは、話し合わないといけないじゃないですか。

あなたは、来るものは受けるだけみたいな答えを言っているけど、誰が考えるの。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

今、111当初予算資料の32ページの国際交流事業という、その部分でございまして、そのページは秘書国際課と政策推進課でちょっと重なっておるようなページとなっております。下のほうに内容の(2)が国際経済交流等関係経費ということで、こちらはどちらかいうと、行くほうの経済交流の可能性で、ベトナム、ハイフォン市は経済交流に関する覚書を締結しているというようなところでございますので、訪問がちょっとできるか、できないかというそもそも論はあるんですけども、これは行くほうの予算が(2)のほうでございます。

その上に、③のその他事業で、来る場合というところとなっております。来る場合はいろいろ訪問目的で、例えばICE TTであるとか、商工会議所や私どもの政策推進課や商工課とかとも連携しまして、目的によって、どこでどのような対応をするか、力を合わせてやっていくわけでございます。行くのか、来るのかみたいなのは、そのときそのときのニーズによって見ていくことになります。

今年度は結局コロナ禍において、ほとんどそういうのはなかなかできないという状況なんですけど、来年度はある程度そういったことも可能になってくる可能性もあるということで、双方ちょっと予算を置かせていただいております。ただ、じゃ、できなかつたら代替策をどうするのか、もしくは無理に来る必要があるのかという観点も含んでのご質問かなと思いますけれども、やはり状況によっては、行くとか、来るとかじゃない代替手段で、例えば調査研究とかのやり取りということもあろうかと思っております。

以上です。

○ 豊田政典委員

分かります、来てもらうのは。視察してもらう目的とか、来ないとできないことがあるので、それはそれで事業になると。行くほうも同じで、向こうの何かを見る必要があるので、行く必要がある。それで結構なんです、分かりました。ちょっと物言いが厳しくなりまして、興奮しまして失礼しました。

以上です。

○ 荻須智之委員長

今お昼になりますので、お昼の休憩を挟ませていただいて、午後も引き続き政策推進部ということをお願いします。

それでは、午後1時再開とさせていただきます。

11:59 休憩

13:00 再開

○ 荻須智之委員長

それでは、午前に引き続いて審査を行わせていただきます。

では、ご質疑のある方は挙手にてご発言願います。

○ 樋口博己委員

森下東京事務所長、よろしく申し上げます。資料のほうで、3ページのほうで、四日市ふるさと納税フェア in 企業オフィスということで、ふるさと納税PRコーナー等を設置とあるんですけど、これは、このふるさと納税は個人を想定していると思いますけど、企業版ふるさと納税もあると思うんですけど、そんなアプローチは想定していないんでしょうか。

○ 森下東京事務所長

このふるさと納税PRコーナーというのは、個人を意識して、企業のオフィスの中に一角を設けさせていただきまして、製品の展示とか、映像パネルを使いながら、ふるさと納

税をしていただくということですので、委員がおっしゃった企業というのまではちょっと想定はしておりませんでした。

○ 樋口博己委員

せっかくそういう企業のオフィスの空きスペースに並べていただける交渉をするんですから、その中で、必ずしもという話ではないんでしょうけれども、企業版ふるさと納税もあるのでぜひともという、PRの冊子か何か作って併せて推進いただいたほうがいいと思うんですけど、どうでしょうか。

○ 森下東京事務所長

委員からいただいたご意見、これから交渉ということになりますので、関係部局と調整しながら、資料等々で交渉に臨んでいきたいなというふうに思います。

以上でございます。

○ 樋口博己委員

ぜひとも、財政経営部とかとよく連携を取っていただいて、お願いしたいなと思います。

あと、4ページのほうの広報活動についてということで、毎月フリーペーパーを発行ということになっているんですけど、そのフリーペーパーはどのように配布していくのか、ちょっとお聞きしたいんですけど。

○ 森下東京事務所長

今の段階では、各中央省庁への訪問をさせていただける機会につきましては、直接手渡しをしながらお話をさせていただきました。緊急事態宣言中におきましては、郵送で送らせていただくというふうなことをさせていただきました。

今後、それらをSNSとかというふうな形で考えております。それがうまくいけば、そういうふうなところも活用しながらというふうには考えておるところでございます。

以上でございます。

○ 樋口博己委員

ぜひとも、フリーペーパーを作成いただくので、内容がどのような内容になるのか、ポ

リユーム感とか分かれば、お聞きします。

○ 森下東京事務所長

まず身近に読んでいただきたいということですので、A4、1枚の表面だけにしております。主な内容としましては、四日市市のトピックスでございます。例えば四日市市独自のコロナ対策予算であるとか、令和2年度を振り返って四日市市の十大ニュースであるとか、その時々々の四日市市のトピックスを知れる、広報から出てくる資料とか、いろんな記者会見の資料とか、それを分かりやすいような形で1枚に仕上げとお配りしたということで、内容については、また今後いろいろグレードアップしていきたいなと思っておるところです。

以上です。

○ 樋口博己委員

分かりました。今後の取組というところも、SNSアカウントを開設しとっておりますので、そのフリーペーパー、1枚物ということですが、その中にQRコードとか、何かそんなのもつけていただいて、このSNSに読み取ったら登録してもらえると、四日市市の動画のURLやQRコードでちょっと見てもらうとか、そんな単なる紙だけに終わることなく、紙からそういういろんなSNSとか、ツールにつながるようなことも考えていただきたいと思うんですが、その辺どうでしょうか。

○ 森下東京事務所長

委員から大変貴重な意見をいただきました。私どもで考えておるのは、まずSNSから入っていくということですが、四日市市のデジタルブースみたいなものまで行けないかなと。これは予算が伴いますので、まだ今、予算化はしておりませんが、そういうデジタルブースみたいなところに入って行って、そこのポスターをクリックするとポスターが見られるし、チラシをクリックするとチラシが見れるとか、そういうふうな形のところまで展開できたらなと思っております。

これは当然、シティプロモーション部との調整がありますので、まだここまでは具体化させておりませんが、そういうところの思いは受けて準備を進めていこうというふうに考えております。

以上です。

○ 樋口博己委員

分かりました。その辺、予算化もあるということで、しっかり準備をいただくということで期待をしております。先ほど私も言いましたとおり、今あるものをつながっていくようなQRコードは別に予算はかからずできると思いますが、これはすぐ取り組んでいただけるということでよろしいのでしょうか。

○ 森下東京事務所長

紙とデジタルの融合というのは考えていきたいなと思っております。

○ 樋口博己委員

よろしく申し上げます。ちょっと、東京事務所の機能として、先ほど村山委員が中央省庁との情報ということで指摘されたところなんですけど、国の情報もあると思いますけど、人材の情報もあると思うんですよね。以前、四日市市も副市長を中央官庁から招いて就任いただいていた時期もあると思いますけど、今、両副市長は市職員出身の方にお就きいただいていますけど、今後、そういう人材交流、これ総務部といたら総務部なんですけど、こんなような四日市出身の、また三重県出身の、こういう優秀な人材がお見えになりますよというようなことも、情報としていろいろ入手いただきたいなと思います。

今、三重県の県土整備部長さんですかね、国土交通省からお見えになっている、非常に優秀な方というふうに、答弁をお聞きしていても感じる場所なんですけれども、そういう方が四日市市にもね。どういうポストで、どういう立場で来ていただくのがいいか分かりませんが、そういう人の交流の中で、情報もより取れますし、また予算の獲得もできやすくなってくると思いますので、そういった観点の情報収集もお願いしたいと思うんですが、どうでしょうか。

○ 森下東京事務所長

人材的なというのは、ちょっと私どもでは難しいかと思いますが、中央省庁とのパイプをつなぐという意味では積極的に関わりを持っていきたいなと思っております。やはり、四日市市に関わりのある、三重県に関わりのある、四日市市に副市長でおられた方という

ふうな形の方とはずっとパイプをつないでおりますので、そのパイプの中からというふうなことで考えていきたいと思っておりますけれども、今はネットワークを広げるというふうなことでございますので、樋口委員がおっしゃられるところについては、私どものところではちょっと難しいかなと思っておりますが、気にはかけていきたいなというふうに思っております。

以上でございます。

○ 樋口博己委員

四日市市出身で東京在住の方の交流の会がありますね、そんなところも、東京事務所が直接、この人はこういう人だという話ではないと思っておりますので、四日市市にゆかりのある、こういうすばらしい人材がいるんですよという情報を収集して、それを本庁の総務部にバックアップしていただくことが仕事だと思っておりますので、そういう観点ではいけると思うんですが、どうでしょうか。

○ 森下東京事務所長

そういう観点では十分できると思っておりますので、頑張っていきたいと思っておりますし、まずは我々が中央省庁の方とのパイプをつないでいかないといけないなと思っておりますので、頑張っていきたいと思っております。

以上です。

○ 樋口博己委員

よろしく申し上げます。東京事務所、一旦終わります。

○ 笹岡秀太郎委員

東京事務所さん、よろしくお願いたします。ご苦労さまです。大変な時期で、こうして画面で会えるとは思いませんでした。

それで、4ページのところなんですけど、今後の取組という表を表してもらってありますけれども、これの時期の見通し。例えば、短期なのか、長期なのか、中期なのか、ちょっと見えない部分があるので、教えていただけませんか。

○ 森下東京事務所長

私は、なるべく短期でやりたいなと思っておるんですが、ここまでたどり着くのにはちょっと時間がかかるかなというふうに思っております。何分、今から開拓というより、四日市ご出身の方とのネットワークもありますので、そこから進んでいきたいと思っておりますが、想定してるのは、もう少し四日市へのご意見とか、提案をいただきたく、生でお話しできる方というふうに思っております。

さらに一歩進みますので、ちょっといるかなと思っているんですけど、まずは四日市市の意見を聞きたいというふうに思いがありますので、令和3年度には、何らかの形はつけたいなというふうには思っているところでございます。非常にあやふやなお答えで申し訳ございません。

○ 笹岡秀太郎委員

分かりました。やっていただくには、やはり時間もかかるものもあるし、きちんとロードマップを作って進めていかないといけない部分もあるだろうというふうに思いますので、またどこかの時点で東京事務所が目指す流れが見えるようなものをちょっと示していただければなど。今回示せという意味じゃなくて、ぜひお願いしたいなと思います。

それと、市長が再選されて、2027年のリニア開通に向けたまちづくりを四日市市はしていますよね。そうすると、このリニア開通に向けては、いわゆるよく言うのは、取り巻く人・物の流れが飛躍的に変わってくるんだというようなことで。そうすると、東京事務所の仕事も、これに合わせた視点での取組というのがなければならないなど。

そういう意味で言うと、今のロードマップの中に中長期の見通しの部分で、そういうところを含めた東京事務所の仕事というものを置いてもらわないと、せっかくある大事な東京事務所が生きてこないなという気がするんですけど、その点はいかがですか。

○ 森下東京事務所長

この令和2年度に着任いたしましてから、東京事務所の存在意義とか、コロナになってから東京事務所の意義というふうなことを常々考えられる機会を得ることができました。まさしく、今、笹岡委員がおっしゃっていただいたような、ちょっとリニアまで私も想定はしていなかったんですけど、どうやっていくのかという中長期的見通しというのは大事なことだなと思います。

ただ、具体的にどうやってやるのか、今の私の頭の中では固まってははいないんですけど、そういう先を見据えたというふうなことは十分肝に銘じなければいけないなということ、改めて痛感をさせていただきました。変な答弁で申し訳ございませんが、以上でございます。

○ 笹岡秀太郎委員

ぜひ、この辺の視点を持っていただいて、東京事務所、ここにありというふうに示していただければと思います。ぜひ頑張ってください。

以上です。

○ 萩須智之委員長

ほか、いかがでしょうか。

○ 豊田政典委員

まず資料をいただいたので、追加の5ページ。私がお願いしたのは、新年度当初予算、総額1212億円、その中の政策推進部13.7億円、ここの予算事業に込めた思い、何を実現しようとしているのか、これをやることによって何が変わるのか。例えば具体的に、人口、イメージ、子育て支援のまち四日市ということで資料をお願いしたところ、この資料を頂きました。

10年後の方向性というのは、もちろんこれで結構だと思うし、議会でも議決した内容なんでね、こっちに向かって10年後を目指していくというのは、それはよく分かります。その中で、新総合計画の2年目として、じゃ、具体的に1年間の仕事の中で、業務の中で何を目指しているのかというのが示されていないわけですよ。

10年後の目標、指標というのは、分野ごとに幾つか示されているけれども、基本政策、それが無い。3年間、推進計画事業のまとめを見ても、金額、事業の概要は書いてあるけれども、目標というのは置かれていない。これは、やっぱりさっきの東京事務所、シティプロモーションの話じゃないですけど、事業を行う以上、必要じゃないかなということ考えているわけです。

5ページが一番下、五つの分野で目指すべき姿がある。例えば、ここに書いてあるような、30代、40代人口、子育て世代が増加し、じゃ、1年後何人増えているのか、出生率上

昇、どれだけ上がっているのか、若年層、上がっているのか。健康寿命、これは何歳上げるのか、下げるのか、低炭素の暮らし、産業を牽引する存在感を放っているか。

これが、今議論しているのは新年度1年予算ですから、10年間のうちの1年の間に何をどこまで達成しようとしているのかというのが全く見えないわけですよ、今回の予算案で。それは、持っていれば示してほしいし、持っていなければ、持つ必要があるんじゃないかというのが、この資料請求の趣旨なんですけれども、これはどうでしょうか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

おっしゃる意味合いを分からないわけではないんですけれども、このそれぞれの10年後の姿に関して1年ごとの目標を持つというのは非常に困難だと思っています。ある程度のスパンで見て、例えば総合計画でいっても、中間見直しを5年後にどうするのかというようなスパンで考えています。ですので、5年、10年とか。かつての推進計画でいうと、3年ないし4年のスパンで、節目を迎える中で組替えとか、振り返るといような形で考えておるところです。

ですので、そういった意味では、ちょっと今の問いに対して、直接的にこうしていきますというお答えではないというところは承知の上で申し上げているんですけれども。あと、推進計画のレベルで言いますと、まとめ方が、総括表で金額で書いておりますので、ちょっと金額ベースに見えていたら、その点は申し訳ないんですけれども、各推進計画の向こう3年間の事業内容という意味では、個々に書かせていただいています。

それは、結局、個別の事業レベルじゃないかという反論は当然あるかと思うんですけれども、私どもの実務的な取組といたしましては、各推進計画事業の向こう3年の見通しを各部局にしっかりと立てていただき、その予算の見通しも私どもなりに積み上げていく。そのトータル額を、財政サイドの協力も得ながら確保していく。

それを何年か積み重ねていく中で、総合計画で置いている指標に資するような効果を得ていきたいというような思いです。すみません、あまり答えになっていませんけれども、そういう思いで考えております。

○ 豊田政典委員

答えにはなっていませんが、参考になる考えは示していただいたかなと思うんですけど。

10年間の総合計画、最終目的に向かって政策推進部は何をするか。これは、事業の目標達成のための進捗管理が一つだと思うし、大プロジェクトについては、まさに中心になって進めていくべき立場ですよ。

だから、単年度予算の中で1年後は、あるいはもう少し長く取っても3年後はどこまで行くんだってことを押さえていかないと、あまりにも目標なき道を進んでいくようになってしまいがちだと思うんですよ、行政の仕事というのはね。ところが、10年後のある程度の目的、目標値、姿をせっかく定めてくれたんだから、これの進捗管理はせめて3年ぐらいで、推進計画期間でどこまで行くんだ、どの段階まで行くんだというのをやっていかないと、10年後、皆さんがおるかどうかわかりませんが、市長も代わっているかもしれないけど、何だったんだというようなことにならないように、それはやるべきかなと、私は思います。

だから、もっとやるならば、単年度ごとに財政経営部のやっている金の査定だけでなく、政策的な査定というか、話し合いをして、今年はこちらまで行くんだ、今年はこちらまでと、段階を追わないと。数字で押さえるのは難しい部分もいっぱいあるのは分かりますけど、それを何らかの形で数値化して押さえていかないと、行政の仕事、どうも緩慢になり過ぎてしまう嫌いがあるのでね。

私の案だと思って、また参考にしていただきたいなということにしておきたいと思いますが。だから、予算案を毎年度立てるのが、各部局中心にボトムアップでやっていくのは、それが四日市市の方針なら、それで結構。金の管理どうのこうのは財政経営部がやる。政策推進部は事業内容について押さえていく必要があるのかなと、私は思いますので、また今後の参考にしていただければありがたいなと。以上。

○ 村山繁生委員

資料、ありがとうございました。調査研究とか、セミナーがほとんどで、1年や2年で結果を求めるというのは無理かもしれませんが、これだけはやっていただいた中で、何か新しい事業に生まれた、新しい会社が生まれたとか、人材育成支援事業もありますけれども、ここで人材を育成して、雇用にそれが結びついたとか、そういった実態があまり分からなかった。そんなのはないんですか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

確かにちょっとセミナーとか、研究会的なものが、どうしてもちょっと多くなっているところがございます。ただ、産業につながる部分ということで申しますと、中小企業様等との共同研究というのをやっていただいているというところがございます。個々にそういう企業のほうに深く入りまして、研究者等企業の担当のほうで、例えば新製品につながるようなとか、そういうのをやっていただいているというふうに伺っております。

私どもも、そういうのをいろいろ、何かやはりご披露したいというところはあるんですけども、いかんせん、何かくださいみたいな話をすると、やはり企業との秘密の保持というところを取り交わしているもので、なかなかちょっとどの企業が何の研究をしているというのは開示できないというふうなお返事をいただいております。

ですので、示せていないんですけれども、7ページの表の中で、2番のところに中小企業等との共同研究推進事業と書いてありまして、市内の例えば19社と共同研究を実施していると、そういうようなところが実際の産業のほうにつながる動きの中心的な部分かなと思っておるところです。

すみません、ちょっと具体的な話につながっていないところは申し訳ないですけれども、そういう部分もございますということです。

○ 村山繁生委員

企業秘密のところは、それは仕方ないとしても、実際にそういうのに結びついたという実績はあるんですか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

ちょっとそういった壁の中で、うまく示せるような形のものを、現状、手に入れているものではないものから、また今後、いろんなケース、報告をいただく中で、私どももこういうご質問を踏まえ、示せるような例を、差し障りない範囲でどうやっていただいでご披露していくかというところを、ちょっと相談してまいりたいと思います。

すみません、現時点ではうまくお答えできません。

○ 村山繁生委員

あるか、ないかを聞いていたの、今のところはないということだね。

○ 佐藤政策推進部長

すみません、ちょっと昔の話で申し訳ございませんけど、実際に例えば萬古焼きなんかでも、新たなものをやるときに、結構、三重大学さんと共同でやられている方がおみえなります。大学のほうで役に立ったりするのは、最後に開発したときの特許申請とか、その辺の登録の参考にさせていただくとか、そういうのは過去にあったように記憶してございますので、あるのはあります。

○ 村山繁生委員

できるだけそういった実績に結びつくようお願いしたいんですけども、これ、いろんな調査研究をやってもらっていますけど、これは結果が出るまでそのテーマで続けるのか、それとも、ある程度したらまた次のテーマに代わっていくのか、その辺どうなんですか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

この資料の後半の調査研究事業のほうかと思えますけれども、研究自体は単年度、単年度でテーマを相談してやっていこうというふうに思っています。ただ、継続して、例えば1年では難しいというようなテーマがありましたら、継続する場合もあろうかと思えます。研究した後、例えばこの8ページにありますI o T化、A I 導入促進というのは、この研究を一つ踏まえながら、もう少し深い取組のほうにつながるようにというところで、今年度、さらに継続した予算のほうも、当初予算のところで盛り込ませていただいているところです。

○ 村山繁生委員

せっかく予算を組んで、産官学と人材は集まって、例えば脱炭素のテーマとか、そういったことを日本中、世界中がものすごい研究をしているわけですね。アンモニアとか、水素とか、そんなことでも。そういうようなものを独自に研究して、そういった企業を誘致してくるとか、そういったことにも結びつけないといけないと思うんですけども、そ

の辺の考え方はどうですか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

産官学連携から企業誘致に直接つながるかどうかはちょっと分かりませんが、先進的な研究機関というのが身近にあるというところでは、それを、今後の展開に生かしていきなさいというような叱咤激励かと思えます。そちらを、例えば研究にとどまらず、実際の企業の展開にどうつなげていくかというところは、常に意識してまいりたいと考えております。

○ 村山繁生委員

そういったことに重点を置いて、せっかく知恵の結集をするわけですから、ぜひその辺のところをもっと頑張っていたらいいなと。実態をもっと分かるようお願いしたいと思えます。

○ 萩須智之委員長

三重大学って風力発電機の研究をやっているゼミが以前からあるんですけど、そういうのと具体的にサテライトを通じてタイアップする企業とつないだりとかという実績は今までなかったんですかね。結構いい研究しているんですけどなかったんですか。

○ 田中政策推進課長

具体的にはどのゼミがどうというのは、すみません、今はちょっと把握してございません。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。何が言いたかったかという、実質、この事業とか、プロジェクトとか、企業との協働というのにつながっている例が意外と少ない。私も一時期、自分の会社が加盟したんですけど、なかなか実現するのは本当に万に一つぐらいかなという感覚だったんですね。50万円ほどのお金も要ということで、共同研究もなかなか大変で。それこそ、市がつなげるといいかなというふうに思ったことがあったんですけども。

ちょっと口を挟みましたが、努力はしていただいているのは分かります。すみません。

○ 村山繁生委員

人材が雇用につながったかということで、答弁をちょっとまだ聞いていなかったのですが、お願いします。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

すみません、ちょっとそちらのほうも把握してございません。申し訳ありません。

○ 佐藤政策推進部長

今のご質問ですけれども、先ほどの7ページのほうで、例えば5番に中小企業向けの人材育成支援事業というのがございます。こちらのほうは実際に就職のためにやるというか、実際に新規採用で新しい若い方が入ってきます。一応、高校でいろんなことを学んでいるんですけれども、企業として欲しい、例えば高圧ガスが云々とか、そういう専門的なところがなかなか分からないというのがあるもので、そういうのを中小企業が一社一社で講師を呼んでやっていると、なかなか手間もお金もかかります。

だから、そういうのを何社かの企業を集めて一緒にやろうということで、実際に企業さんに参加していただいて、役に立っているということは、これはずっとそういうふう聞いていました。

○ 村山繁生委員

新しい雇用とか、そんなのじゃなくて、企業から派遣された人材を高めるというか、育成するという事業ですね、これは。その意味ですね。

○ 豊田政典委員

同じ事業についてなんですけど、決算審査でも似たようなやり取りがあつて、その内容というのは、講座にしても一般向けではなくて、専門的な研究会であるとか、あるいは、委員の意見の中に最終的にどのように市民に還元されるのかという点が見えないと、村山

委員が言われたのかもしれないですけど、私も同じ思いです。

この事業というのは、三重大学、東京大学に対して調査研究を委託してる事業でもなければ、イベント、講座をお願いしている事業でもないわけです。連携して、産官学のそれぞれのニーズや、あるいは情報、技術を結集して、新たなものを創り出そうというようなことで、ウィン・ウィンじゃなきゃいけないのに、例えば東京大学とやっていたのはどうやって生かされるのか、私には分からなくて。東京大学のためには役に立つかもしれないけど、四日市市のためには何も役に立たないような内容になってはいけないわけです。

なのに、どういう効果があるか、よく分からない。我々が直接の求めるのは、具体的にすぐに還元できるような成果が欲しい。これがあれば分かりやすい。そうじゃない、もっとデータベースとか、いろいろ政策を考える上で必要な分析データ、そういうのをバックにこれからの政策を展開していくというのであっても、それは目に見える形で市民に示してもらわないと、何か難しいことをやっているねで終わってしまったのでは、そんなのやめてしまったほうがいいと、僕は思うので。これ、何年目なのか。テーマは誰が決めるのか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

資料で、令和元年度、令和2年度の取組について挙げさせていただきまして、今2年目という形でございます。委員おっしゃるように、例えばウィン・ウィンでなければならないとか、市のほうにどのような還元があるのかというのは、市の予算を使う以上、それは当然そうでございます。

ただ、ウィン・ウィンということ言えば、やはり研究機関ということであれば、研究としての一つ、深まりというところ、専門性というところも、大学側からすれば、そういう意識も持っておられる。そういった中ですり合わせていって、これを例えば研究してはどうかとか、そういうような相談をしていくというような形になっている状況です。

ですので、テーマに関しては、私どもと大学側で、そのときのお互いの関心のテーマをすり合わせていくとか、例えば今年度でいえば、ちょっとコロナ禍という特殊な状況がありますので、ちょっとフィールドワーク主体の研究ではちょっと難しいというようなところがございまして、この資料で示したようなテーマになっているというような実態もございます。

ですので、今後についても、例えばよりよい形とか、市への還元を意識した形というのをどうしていくかというのは考えていかなければならないというところです。ですので、現時点で、じゃ、これという形でお答えはありませんけれども、そういった趣旨を踏まえながら、今後も考えていきたいと思っております。

○ 豊田政典委員

内容によっては、行政にないような情報や技術を持っているので、うまく連携できれば、非常に有効な事業だと期待するところ大なんですけれども、2年間たって、関係性を構築できたと思いますから、これから、新年度から本当に皆さんが必要とする対応を研究して、共に分析できるようにしていただければいいかなと思うんです。

だから、期待しておきたいなというところです。今までは期待外れでしたということ。
以上。

○ 森川 慎委員

同じところで、今のお答えでちょっとびっくりしたんですけど、この産学の連携の調査研究というのは、お互いに興味のあるのをすり合わせていて決めているんですか。

○ 田中政策推進課長

すみません、私の言葉のチョイスが何か変に聞こえたら申し訳ないんですけど、大学側からすると、こういうことを専門としている研究者がいる。そういった研究者は、やっぱり例えば四日市市なら四日市市というフィールドで様々な研究をなさりたいというのがございます。

ただ、我々からすると、単に学問的なのというか、ちょっと言い方は悪いかもしれませんが、知的な興味だけでやる研究であれば、行政としてはちょっと使い勝手が悪いというところになりますので、私どもが今後のまちづくりを考える上でとか、例えば市内の企業さんに何らかの還元ができる取組につながっていくような、何かそういう基礎的なデータを提供してもらえないかとか、提言をもらえないかとか、そういったものがあるような形で、私たちはあってほしいと思います。

例えば、そういう研究者がいないよというテーマをこっちがオーダーしても、結局実現しませんので、その辺を、じゃ、今どんな研究ができるような人材がいて、実際のデータ

が収集できそうかどうかとか。我々としては、今、例えば総合計画の中でもいろんな、こういうようなプロジェクト的なテーマがある中で、どれかを深めてもらえないとか、基礎的なデータがもらえないとか、そういうようなところにつなげていきたいという思いを出しているというところです。

○ 森川 慎委員

令和3年度は予算300万円上程されていますけど、何を研究してもらおう予定なんですか。

○ 田中政策推進課長

来年度に関しては、ちょっと現時点ではまだ定まっているものでございません。

○ 森川 慎委員

私の認識というか、知っている範囲だと、一般的に自治体とかが大学のそういうところに依頼なり、研究をするというのは、こういうことを調べたいとか、こういうことを実現したい、そのためにはどういうことができるのかと、そういう投げ方を個別のゼミであるとか、誰々教授とか、そういう人に依頼して、研究してもらって、それをフィードバックする。

例えば先ほどの東京事務所の話で、シティプロモーションの認知度がどれぐらいかって知りたいと。これを大学で、皆さんの知見で、これを幾ら幾らで予算をお渡ししますので、これで調べてくださいって、こういうのが大学の使い方だと思うんですよ。現に、私は三重大学にちょっと知り合いがいるので、例えばこういう廃棄物が出るから、これでバイオマスの取組をしたいと、どんな仕組みがいいんだとか、そういう依頼を幾らで年間やってくださいと、こういう使い方をするんですよ。

四日市市は、これ予算は出てきているけど、来年度何を調べてもらおうとか、調査してもらおうということがなくて、予算ありきでこれを上げてきているんですか。

○ 田中政策推進課長

委員おっしゃるようにテーマがあって、それを委託するというか、それを解決してもらうために研究機関を使うということは、当然、そういうことは中心的にあらうかと思えます。それは、それぞれ事業を持っているような部門が調査研究とか、その事業の実現のた

めに目的を持って事業費を組んでやっていくという形になります。

政策推進課が特殊な立ち位置といえ、そういう言い方がいいのかどうか分かりませんが、それぞれ事業を持っている部局ではふだん取り扱わないような基礎的な部分とか、まちづくりの例えば根本的な部分みたいなどころというのは、なかなか通常の事業をする部局ではやらないことだと思います。

市と研究機関が連携協定を結んでいるということ踏まえ、私どもはその研究機関の持っている研究の力量を市のまちづくりの基礎データであるとか、基礎的な研究のほうに生かしていきたいというところなんです。ですので、具体的なテーマが毎年、毎年、例えば決まっているとか、年次的に決まっていないというようなところに対して、ご指摘いただいているわけなんですけれども、そういったところで、ほかの部門でなかなか拾わないようなテーマを私どもが探しまして、こういう研究機関の持っている知見を活用したいという思いもございますので、このような状態になっている次第です。

○ 森川 慎委員

あまり意味が分からんのですが、自分たちで調べたいとか、欲しい情報とか、データとかあってあるわけでしょう。それを研究なり、調べてもらったり、調査してもらったりというのが、こういう知見の使い方なんじゃないんですか。それは違うの。そうじゃないというんだったら、別にいいんですよ。基礎的ないろんな情報をもらえりゃいいんだと、そういう予算であるのであればそれでいいんですけど、産学官連携調査研究費で何かを研究してもらうことを期待してるわけですね。四日市市の役に立つ、まちづくりに資するような、そういうものを大学の知見を生かして、あるいはゼミのそういう人たち、生徒さんたちなどの人的なパワーを使って調べていただくということが目的なんだと、私は認識しておられるのだろうなと思っていたんですけど、考え方が何かちょっと違うんですか。

大学の活用ってそういうものやと、私は認識をしているんですけど、もっと違う感じなんですか、よく分からないんですけど。

○ 田中政策推進課長

すみません、委員が違和感を持っておられるようにお見受けするんですけど、私としてはそんなに違う話をしているつもりはございません。ただ、ちょっとテーマ的な見通しが立っていないということについては、私どもがそういう具体的なテーマを研究機関のほう

とすり合わせが未熟だということは、もちろん我々は反省しないといけないんですけども、研究機関を活用していく、それが四日市市にとって必要なテーマとか、将来的に知っておきたいようなテーマなどを、そういったところをお願いしていくということについては、同じだと思います。

○ 萩須智之委員長

ちょっとお待ちください。これ、ファシリテーターとか、コーディネーターって、変な横文字を最近使いますが、仲介して、両方をつなぎ合わせる役の人というのがいたりするんですけど、この場合、副学長クラスの人が出ていらっしゃるんですか。

○ 田中政策推進課長

サテライトのほうには、コーディネーターという方がおりますので、そういったところにご相談しながら、また、その方が大学の先生達とつなぎながらというところですよ。

東京大学のほうは、主に私どもは機構長という方とやり取りをさせていただいてまして、逆に言うと、コーディネーター役的な人はちょっとおみえでないというところですよ。

○ 萩須智之委員長

そこにちょっと問題があるように思っていますね。やはり、それをつなぐのには、その両方に知見のあるような方がいないと、つなげないように思うんですね。それは今ちょっとこの話のやり取りを伺っていて、森川委員がお尋ねになっている点では、どうも長いスパンでの研究計画とかというのがないじゃないですか、毎年とか。それでは、やっぱり大きいテーマを扱えませんし、その辺、森川委員、どうぞ。

○ 森川 慎委員

私の知っている範囲だと、自治体なんかの依頼でも、単年度で、この期間でこれだけ使って調べてくれというのは往々にしてあるもので、テーマが大きい、小さいというのはまた別の話だとは思いますが、でも、予算を上げてきて、まだ何を調べてもらうか分かりませんという状態というのは、やっぱり、どう考えても、これは研究を目的としているような予算ではないんだろうなと思わざるを得ないし、それこそ三重大大学のサテライトなんかだったら、いろんな学部があるわけで、これがある、これができるというのは、ほぼ

何でも網羅できるのと違うかなと、私は話を聞いていて思いました。

こっちからこういうことを調べてくれというのがなければ、豊田委員が言っていたかもしれないけど、やめてしまえばいいよという話になってくるかなと、私は思いますから、もう少し、本当の意味で、研究とか、知見を生かすということを真剣に考えていただきたいなと思います。

毎年こんなのをしているよと、とある教授さんなんかに言わせると、ざるやなど。研究室って、結構それぞれのゼミとかでどれだけ年間お金を取れてくるかというところで、結構重要なシビアな問題なもので、何も無いのに300万円とか、一般的にあまりないんですよ。

そういう中で、こういう予算の出し方をしているの、私はどういう考え方を思っているのかなということ、3年目なのでもっと進んでるかと思ったけど、最初からあまり変わっていないなという感想です。

この四日市市でいっぱい問題があって、課題があって、シティプロモーションのさっき話も出ましたけど、脱炭素だってそうだし、調べてもらわなければいけないことはいっぱいある中で、その辺をもっと具体的にしてもらって、こういうところを使ってもらわないと、やっぱりこれも税金ですから、市民の理解というのはなかなか得られていかないのかなと思いますし、もったいないお金の使い方をしてるなと、私、個人的に思いますので、もう少し真剣に考えていただきたいなと思います。

○ 田中政策推進課長

ちょっと私の説明不足であったところを補足しますと、三重大学の北勢サテライトのほうには、産官学連携のために必要な北勢サテライトにおける四日市市との連携事業を行った際の補助金として、2分の1補助で300万円という形で、当初予算資料のほうを上げさせていただいています。ですので、こちらは委託料ではございません。北勢サテライトが連携事業をしていただいていることに対しての補助金という形になっております。

あと、先ほど東京大学のほうでという話ですけれども、こちらのほうは委託研究という形です。ですので、そちらのほうについて主にご指摘いただいている部分というところがございます。先ほど委員長のほうが仲介していただいたように、やはりその辺のつなぎ方というか、研究機構との間の連携の取り方、相談の仕方について、付き合い方が私ども、まだ未熟であるというのがご指摘の中で根っこにあるのかなというところがございます。

その辺は確かに課題でございます。だから、私どももちょっと現時点でお答えが定まっていないうなところについて、私どもがそこまで、今2年目という形でございますけれども、手探りやる中で、ちょっとうまく付き合い方の間合いが取れていないというところなんです。コロナ禍の中で、あまりそちらに私どもが伺えていなかったというのも反省点ではございますけれども、そういったことを課題として強く認識しまして、今後の研究をどうしていくかというところの宿題というか、課題といたしたいと思います。

○ 森川 慎委員

三重大学の話をされましたけど、さっきの答弁の中で、結果が出るまで何をしているかわからんわけでしょう。中小企業とどういう研究が出ているとか、どういう方法で研究しているとか、把握していないでしょう。いろいろ言われるけど、300万円も出してもらって、活用できていないじゃないですか。お金を出すのに、雇用につながった人数も把握していないとか。

○ 田中政策推進課長

すみません、資料のほうで挙げさせていただいた7ページ、8ページにあるような、それぞれの事業が連携事業であり、その補助に値するということなんです。そういった中で、せっかく市がいろいろお金を出すのであるならば、雇用につながるようなことをもっと強くやってほしいとかというところ。

中小企業との研究についての実績はあるんですけども、ちょっとこういった場でご披露できるものではないということで、オフレコであったら、例えば聞ける可能性はなきにしもあらずですけど、外へ言えませんがというところの中で、どういようにお示しできるかというところが課題だと思っております。

○ 森川 慎委員

別に内容をつぶさに聞こうなんてしていませんよ。でも、把握していないんでしょう、さっきの村山委員との答弁の中で、どういうのをしているとか、オフレコで聞くとか、今さら言われたって、していないんじゃないですか。次から次にいろいろ言うけど、何もできていないじゃないですか。私は極めて、何かまずいを取り繕っているようにしか聞こえないですよ。

○ 田中政策推進課長

すみません、取り繕っているように聞こえたなら、私のしゃべり方が下手なせいですので、この事業が悪いわけではありませんので、すみません、うまく伝わらなかったところは私の非でございます。

○ 荻須智之委員長

すみません、これ、サテライトに見える職員の方は、きちっと把握されていますわね、三重大の職員の方。

○ 田中政策推進課長

もちろん、そうでございます。

○ 荻須智之委員長

だそうです、森川委員。

○ 森川 慎委員

これはもうこれで結構なので、言ったように、ちゃんと目的を持って、大学にお金を出す以上は使っていただきたいと思います。

最後に、四日市には四日市大学とか、看護医療大学とか、こういう大学があるんですけど、こういうところには、こういう研究の依頼したりとかはしないんですか。

○ 田中政策推進課長

大学の連携というところで、例えば四日市大学とも連携協定はございます。あと、私どもの部門じゃなくて、健康福祉部のほうは看護医療大学のほうといろんな連携事業をしています。例えばそういった専門的な委託等もしていただいているところです。四日市大学も連携事業というところで、こういったお金を出すということじゃなくて、例えば四日市大学の先生がいろんな市の活動の中で、審議会の例えば委員であるとか、アドバイザーであるとか、していただいたりもしております。

○ 森川 慎委員

私が聞いているのは、調査研究とか、そういう依頼みたいな形で大学の知見を利用するようなことはされていないんですかと伺ったんです。セミナーに来ているとか、講師に来てもらっているとか、どこかに派遣しているとか、どこかのイベントの手伝いを学生にしてもらったとか、そういう話じゃなくて、大学として本市に所在している大学のそういう知見は活用していないのかということを確認しました。

○ 田中政策推進課長

すみません、ちょっとこういった形の研究の委託という意味では、私どもからは四日市大学にしておりませんが、産官学で言うと、工業系であるとか、そういったところがどうしても中心となりますので、そういった意味ではちょっと、四日市大学は人文系です。

○ 荻須智之委員長

工業系でないというので委託しにくいということですね。

○ 森川 慎委員

東京大学に調べてもらったのだから、土地活用方法に関わる経年変化に関する研究でしょう。別に工業じゃないじゃないですか。この四日市市にあって、四日市大学の学生数は減っていて大変だというのは分かっていますが、そういうところというのを何で活用しないんですかと聞いているんです。

これ、三重大学と東京大学には300万円出して、本市に学生も、教授も、施設もある学校があるにもかかわらず、そこにはお願いしていないということは、本当の意味でこういった研究とかというのを大学の知見を生かして解決していこうとか、何か調べていこうという意欲が本当にあるのかなと、私は思うんですけど、どうですか。

○ 佐藤政策推進部長

四日市市も別に意図的に外しているわけでは全然ございません。四日市大学の中で研究しているような格好で、うちがテーマとしてこういうのをやっていただきたいというのであれば、それはそれで当然、予算をまた組んで考えていくということになるかと思いま

すけれども、今の時点で私どものほうからやっているものはございません。

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。

○ 森川 慎委員

四日市市として、政策推進部として、こういうことを知りたい、調べたい、研究してほしいというのがあれば、そういうアプローチは例えば四日市大学にはされているんですか、今の答弁だったら。

○ 佐藤政策推進部長

ちょっとよく意味が分からないんですけど、もう一度お願いします。

○ 森川 慎委員

今の話だと、四日市大学でできることがあるかどうかみたいな判断をまずして、今のところはないんだみたいな、言われた意図が私もよく分かりませんが、四日市市としてこういうことを調べたいと、市内のこういうところの調査をしたいとか、そういうのがあったら四日市大学に調べてもらいたい。どこの大学というのは関係なしに、そういう大学なんかの使い方をしたいということを思っているのだったら、当然、三重大学、東京大学だけじゃなくて、四日市大学にもそういうアプローチをしているんじゃないかなと思うんです。

そこで、ちょっとできませんと言われることはあるかもしれませんが、そういうことは検討はされていないんですかということ。

○ 荻須智之委員長

当市に有益な研究テーマとかがあったら、どの大学にかかわらず、それはトライしていただきたいと。

○ 森川 慎委員

もっと言えば、四日市市なんですから、今は四日市大学を出していますけど、だから、

研究できるいろんな資源があるわけですね。そういうことは、アプローチを考えてはいないのかということ、質問をしました。

○ 佐藤政策推進部長

四日市大学を排除しているわけではございませんので、先ほども申しあげましたように、四日市大学の先生の中で、こちらが欲するところの研究内容、そういうのに長けている方がいれば、それは当然考えていくことになりますので、別にほかの大学とは別ということではございません。

○ 森川 慎委員

再質問しますけど、今の欲するところというのが本当にあるのかということ、を問うているんですよ。それができるのが三重大学や東京大学かもしれないけど、欲することがあったら、当然、四日市大学にもアプローチをして、こんなことは調べられませんかねということ、を言っているんじゃないかなということ、を期待して、私は質問したんですけど、ないんですか。

○ 佐藤政策推進部長

全て大学に関する調査研究なんかを出していくときに、私どものほうの政策推進部のほうで全部まとめてやっているわけではございません。それぞれに担当部局でいろんな課題が出てきて、これを解決するためにはどうしたらいいか、ちょっと大学の先生のお力を借りようかというのは出てこようかと思えますけれども、どうしても我々、うちのほうを通じてやったほうがいいとか、そういうものについては、当然私どものほうから行きますし、私どもの知らないところでいろいろ調査をやっているところも、それはあろうかと思えます。

○ 萩須智之委員長

ありがとうございます。最後をお願いします。東京大学のこのサテライトには、福田教授という都市工学の専門の准教授が見えます。ぜひ活用していただきたいと思えます。ですから、バスタ、この図書館の立地とか、もっと使われたらいいのになと思えますので、それだけお願いして、この辺で森川委員、よろしいですか。

○ 森川 慎委員

もういいです。

○ 樋口博己委員

関連です。森川委員、いろんな質疑をされたところなんですけど、四日市市が今の政策推進部として、この10年後、20年後、30年後、まずは2050年と思いますけど、そこへ向かって明確な課題整理、こういうことが必要だということを、やっぱり整理しないといけないと思います。

桑名市が、先々週の一般質問の中の答弁で、脱炭素社会ということで質問された議員がお見えになって、それに対して市長が新年度にグリーン資産創造課というのを立ち上げるそうです。これは、脱炭素社会の実現に向けた環境政策の立案などに取り組むというふうになっています。

脱炭素に向けて、桑名市としていろんな課題整理をして、施策を推進していくということを明確にするための、こういう課をつくられたんだと思います。だから、四日市市もこういう課をつくらないといけないという話ではないかも分かりませんが、いろんな知見を活用するにしても、四日市市の狙いを明確にするところが、やっぱり必要なんだと思います。

課なのか、室なのか、どうか分かりませんが、さっきの部長の答弁も庁内でそれぞれが課題を整理して、直接知見を求めることもあろうかという話もありましたけど、それをしっかりと戦略的に、やっぱり政策推進部で取りまとめて、そういう狙いであれば、こういうところがどうでしょうかというぐらいのセッティングぐらいはしないといけないと思ってます。そうでないと、産官学と言われることをお金を出してやるのであれば必要だと思っています。

ちょっと政策推進部の中に、そういう課題の明確化、整理する機能をしっかりと持つべきだと思いますけど、その辺どうでしょうか。

○ 佐藤政策推進部長

まさしく、これから市としてどういうことに取り組んでいかないといかんかということで、政策推進部のほうがある程度旗を振っていかないといけないのではないかとということ

だと思うんですけれども、昨年度にずっと総合計画をつくる中で、そういった議論をかなり各部局のほうではやらせてきていただいています。逆に我々のほうから、もっとこういう施策が何とかできないのかといったようなものを投げかけてはきたわけですが、やっぱり現実として、現場でやっているところは本気でやる気になっていかないと、単なる描いただけの計画になってしまいます。

その辺でかなり議論はやってきたつもりでございますけれども、まだまだ脱炭素という格好に向けての分野においては、なかなか具体的な市としての取組というのが見いだせていないかなというのは、これは環境部に怒られるか分かりませんが、私としては実感はしてございます。

我々はそういうのを含めて、政策推進監会議なんかを通じて、いろんな課題があれば、大学とのネットワークもございますので、そういうところを通じてというお話もさせてもらっていますし、常々そういう気持ちを持ちながら各部の業務にアンテナを張っていききたいなと思っています。

○ 樋口博己委員

そういう形で、より明確にするためにはそういう専門の部署が担当なりをつくるのが一番いいと思っていますが、しっかりと取り組んでいただきたいなと思います。そして、その上で、具体的な明確な狙いの下でしっかりと大学に研究依頼して、森川委員は三重大学にはいろんな学部があると言われましたけど、三重大学も工学部の中に環境を扱っているところもあるんですね。生物資源学部とかそういったところもあるかと思いますが、しっかりとそういった観点において取り組んでいただきたいと強く要望させていただきたいなと思います。

○ 村山繁生委員

関連で。今の樋口委員に全く本当に賛成するところであります。総合計画の検討会をやっていた頃はそれほどまで脱炭素に向けて大きな議論になっていなかったんですけど、ここ最近、急に本当に一気に流れが変わったというか、そういうふうに進んでます。やはり四日市市も遅れないというよりも、先進的にしっかりと特化してその施策に取り組むべきだと思います。こういうときこそ、東京事務所のほうも環境大臣も脱炭素のところに対してはしっかりと補助を出すというふうに言っていますが、そういったところを引っ張ってこ

ないといけないと思うんですよ。

だから、ぜひその辺の方向性に向けてやっていただきたいと思うんですけども、いかがですか。

○ 森下東京事務所長

今、カーボンニュートラルとか、そういうふうな形の情報は収集してますので、その情報が入り次第、本庁には常々送っているところであります。現実に行っているところがございますが、さらに気を引き締めて充実していきたいなというふうに思っております。

以上です。

○ 佐藤政策推進部長

今、具体的に、じゃ、これをやりますかということはなかなか申し上げにくいですけども、その辺はしっかり進めていけるように、十分に頭に入れておきたいと思っております。

○ 萩須智之委員長

よろしいでしょうか。では、この施策についてはこの辺りとさせていただきます、休憩を取らせていただきます。今、午後2時8分になります。25分再開ということで、お願いします。

14：08 休憩

14：24 再開

○ 萩須智之委員長

それでは、若干早いようですが、森川委員はお遅れになるということですので、再開させていただきます。

引き続き、ご質疑のある方は挙手にてご発言願います。

○ 豊田政典委員

まず、新型コロナウイルス感染症対策室にお聞きするんですけど、先議の一般会計補正

予算第9号のところで、なぜ政策推進部に新型コロナウイルス感染症対策室ができたか、その意味合いは確認させていただいたので、各部局の調整に当たるので政策推進部ですよと、それはそれで納得したんですけど。

あとは、あのときに、ちょっと場違いではあったけど、ワクチン接種に関して新たな情報とか決定事項があれば、議員にも即時知らせてほしいということをお願いしましたが、その後、1か月ぐらいたちましたけど、何か決定事項、情報というのがあるように聞いているんですけども、流れてこないの。ないんですか。

○ 田中政策推進課長

すみません、ちょっと予算の説明をさせてください。コロナワクチン接種の予算は、当初予算の補正の中に入ってございますので、ちょっと形式上、今やっているのは最初に上程した当初予算のほうです。そこにはワクチン接種の予算がちょっと入っておりませんもので、冒頭、部長が申し上げましたが、当初予算補正のところでワクチン絡みでお願いできませんでしょうか。

○ 豊田政典委員

どっちでもいい。体制とか、広報とか、その辺を聞くので、別に予算そのものに聞くわけじゃないので、ここでいいんです。新年度のワクチン接種について、新型コロナウイルス感染症対策室としてどうやって取り組むかというのを聞きたい。

○ 荻須智之委員長

当初予算の上でということ。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

恐れ入ります。先ほど豊田委員のほうから、前回のときにいろいろとコロナワクチン接種に関しましての情報がもし入れば流してほしいと、そういったご意見を頂戴しました。確かに状況はいろいろ変わっております。冒頭、部長のほうからありました、ワクチンの入荷、そういうところも、国の当初の想定よりもかなり遅れて、また少なくなっていると。これはある意味、国のほうからの日々のお示しもあり、各委員の皆様もご存じかとは思いますが。市のほうといたしましても、これは調整事項等もいろいろとある中で、例えば一つ

情報を流させていただいたのはコールセンタの設置、これは予約のほうのコールセンターじゃなくて、一般的なお問合せを含めた、そういうコールセンターという業務を開始させていただいたというところの情報のほうは、皆様のほうにもお示しさせていただいています。

現在のところ、市のほうで動く範囲としての調整事項等がいろいろとございます。これは医療機関等もそうとございます。それから、あと集団接種会場も、広報もいろいろと挙げさせていただきながら、ほかにも、これは実は皆様のほうにお示ししていないところもございますが、その辺につきましてはまだ調整中とございますので、そういう確定事項、それから、医師会等を含めた医療機関との調整事項も含めて、確定したということでお示しをさせていただきたいと思っておりますので、その辺ちょっと情報量不足のご指摘があるかも分かりません。

そういったところにつきましては、おわびさせていただきますが、確定事項については、今後また新たにお示しさせていただきたいと思っておりますので、ご了承いただきますよう、お願いいたします。

以上です。

○ 豊田政典委員

未確定な情報はなかなか流しにくいというのはよく理解できるので、これは前振りとして理解しておきますが、今からお聞きするのは、主に新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に関する外国人広報のことなんです、外国人ね。これは、今までどうやって広報してきて、これからどんな媒体で、どういう方法で、外国人に対して情報を流す予定なのか。この辺りどうですか。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

まず、今回のワクチン接種は当然、外国人の方も対象になってきます。先般、代表質問のほうでも答弁させていただきましたけれども、今後、まず接種券に同封するチラシのほうでは、私ども四日市市のホームページのほうで、5か国語対応のワクチン接種の概要、案内、そういうところをQRコードで入っていただいて、そこから見ていただきますよという、そういうような案内文書のほうのコメント、それを5か国語で考えております。

それから、あと、ポルトガル語の方、大変多いんですけれども、こちらのほうは4月か

らラジオ放送を流させていただくのを考えております。また、当然のことながら、先ほど申しましたように、チラシのほうでご案内する内容を調整でき次第、対応させていただいて、また掲示していくと、そういうふうに考えております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

いろいろな媒体を使って、正確にきちんと伝わるように工夫をしてもらう必要があると思うんですが、今、ちょっと皆さんに見てほしいんですが、まず四日市市のホームページを見ていただいて、一番目立つところに、議会からも要請しましたが、赤色で新型コロナウイルス感染症情報というのがある。今、途中経過ですけど、一番左、ワクチン接種というところを開くと、コールセンターの案内がありまして、想定スケジュール、接種会場の候補地までが書いてある。

これちょっと、日本語版ですけど、これ配ってください。これを一つの大きな広報としてしようとするということなんですけど、日本語版と照らし合わせて見てほしいんですが、私は笹川に住んでいるので、ポルトガル語はどうなっているのかなと見た。四日市市のバナーの右に自動翻訳のボタンがあって、ポルトガル語を押してもらくと、ポルトガル語に自動変換されている。

今配ったやつと照らし合わせると、まず、おかしなことが書いてあるんですね、自動翻訳なんで。3番を見てもらくと、住所地が書いてあるはずなんですけど、3番、よく分からない。何か日永を翻訳しているんでしょうね。4番目は海山道のことですってなことになる。

戻ってもらって、ちょっと分かりにくいのでスペイン語を見てみましょうと。スペイン語もまたおかしなことになっていて、今度は、住所地が、3番、日永、海山道はそのまま、住所地にフクシマと出てきます。これは何を翻訳したのか分かりませんが、こうなっている。

さらに、笑っちゃいけないんですけど、英語なら分かるだろうと思って、英語を見るわけですよ。英語はもっとひどいんです。さっきの候補地のやつを見ていくと、これは住所地は塩浜、海山道になっていていいんですけど、下宮町、ウエルアボイダンスプラザ、あ避けるプラザって書いてあるわけですよ。あさけプラザ。5番、塩浜町スリーフォールド・ホクセイ・ヘルス、三つに重なる、三重。これを見てたどり着けると思いますか。自

動翻訳機なので分かるんです。分かるし、シティプロモーションの世界かも分からないですけど、重要な情報をこれからここに書いていきます。そのときに、ウエル、ア、避けるプラザ、どこにあるのかと。これはあまりひどいでしょう。だから、市のホームページに自動翻訳機能を入れてもらったのは、全般的にはすばらしいことだと思うんです。

重要な情報は、やっぱりチェックしたほうがいいんじゃないかなと。どうですか。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

いろいろとご指摘ありがとうございました。私もその辺はちょっと確認を怠っておりまして、本当に申し訳ございません。やはりおっしゃるとおり、正確な情報、特に住所地というのは、ここへ行くわけですので、その辺につきましては、広報のほうとも調整させていただいて、間違いのないように的確な表現でできるように、今後、修正していきたいと思っておりますので、ありがとうございました。

○ 豊田政典委員

総じて外国人市民の方の生命、健康に関わることなので、この発信についてはくれぐれも丁寧にやっていただきたいなど、きちんと伝わるように、困らないように。これは、新年度、お願いしておきます。

以上です。

○ 森川 慎委員

この住所だけじゃなくて、ほかのところもちゃんともう一回見ておいてください。ちょっと気になりました。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

ご指摘ありがとうございました。こちらのほうでまた確認して、修正させていただきます。

○ 萩須智之委員長

これは早速、外国人の定住者の方に言うような情報ですので、お願いします。

ほか、いかがでしょうか。

○ 豊田政典委員

あと二つばかり確認ですけど。いずれも決算審査議論からなんですが、まず中核市移行推進事業費について、決算のときにいろいろとやり取りをした中で、いろいろありますが、新年度はどこまでやろうとしているのか。その意気込み、目標を確認しておきたいなということですよ。

○ 大橋政策推進部政策推進監

政策推進部政策推進監、大橋でございます。よろしくお願いいたします。中核市の移行についてというところで、どこまで来年度というふうなところでございます。まず一番の課題であります、産業廃棄物の不適正処理事案の関係がでございます。こちらは、令和5年1月で、工事完了予定ということでございますので、こちらについてきちっと注視していくということでございます。

それ以外にも、当然環境分野以外にも、民生分野ですとか、都市計画、教育というふうなところで、様々な権限の移譲事務がやってまいりますもので、こちらについては、今ちょっと三重県と話し合いをしております。課題ですとか、どういうふうな問題が出るかというふうなものをピックアップしていただいておりますので、そういったことを各部局のほうと今すり合わせをしておるというような状況でございます。今後、中核市に移行するというふうになったときには、対応できるように取り組んでいるというふうなところでございます。

来年度も同様に取り組んでいくというところでございます。

以上です。

○ 豊田政典委員

その工事が完了する令和5年、これを一つ目標に置いているというふうに聞こえたんですけど、それまでは無理だと。目標の期限が来たときには速やかに移行できる準備を、来年度も再来年度も続けていくということですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

政策推進監、大橋でございます。令和5年1月というところが、工事の完了する見込み

ではあるんですけども、その後も、やはりどんなような状況になるか、いろいろモニタリングというふうなところも、やはり、状況を見ながら、中核市移行の時期というのは探っていないといけないかなというふうには思っております。その中核市移行の時期がいつになるかはちょっとまだ明言できませんけれども、それまでに三重県さんとはいろいろ調整をしつつ、課題のほうを解決していくというところでございます。

○ 豊田政典委員

そうすると、工事完了は令和5年1月ではあるけれども、そこを目標に置くまでには至っていないということを言われた。

それから、それ以外の課題について協議していくということなんですけど、その課題の内容も詳しくは聞いておりませんが、聞いていても、工事は別にして、どんな課題があって、どこでつまづいていて、どこまで進んでいて、どう諦めたのか、どこを実現したのかというのが全く見えませんよ。一体どうなっているんですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

課題や支障というところかと思うんですけども、その点につきましては、私どものほうで、各部局、取りまとめて三重県ともやり取りしておりますので、中身自体は把握しておりますし、それぞれの条例ですとか、法律ですとか、そういったところで、三重県のほうからは、こういうふうなところが課題ですよというところで、例えばシステムをつくっておかないといけないとか、そういうふうな情報なんかもいただいておりますので、それに対してどのようなものを用意しておけばいいと、条例をつくっておけばいいとか、そういったことをやり取りさせていただいているというところでございます。

○ 豊田政典委員

そういったところというのが分からないんですけど、じゃ、その期限は、移行時期は別にして、移行するとして準備しているわけで、協議しているわけですね。それが10あるとしたら、準備作業はどこまで来ているんですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

どこまで来ているかと言われますと、なかなかお答えがしづらいところではあるんです

けれども、それぞれの部局の中で、実際に質問があって、三重県とのやり取りというふうな形にはなっていくわけなんですけれども。

○ 荻須智之委員長

ずばり数字で、1から10の間で。田中課長で結構です。どうぞ。

○ 田中政策推進課長

すみません、私が言うほうが不正確な数字になって申し訳ないんですけど、10とか、そういうような数字で言えるものではないです。どういうことかといいますと、中核市移行というのは中核市移行の手続というのを総務省にする必要がございます。それは県と市で協議をして、この事務についてやり取りをしますというのを、事務を全部洗い出した書類、法律の何条の何の事務とか、そういうのを洗い出した書類を全部書き記したようなものというのを総務省に手続する必要がございます。

それを作るためには、県と市でその事務について確認をして、積み上げていくという作業になります。ただ、それは、中核市移行を正式に手続を始めますということ、四日市市として移行年次も含めて宣言してからです。そういう意味では、正式な手続は始まっていないし、まだ我々は年次を定めているものではございません。

ですので、今やっている作業というのは、いざ行くぞとなったときに、各担当部局というか、移譲事務を受ける部局のほうですぐ動き出せるように、事務に関する知見を深めておく。そのために、先ほど推進監が申しあげましたのは、具体的な事務について、引継ぎを受けたらすぐできるようなものなのか、システムを組んでおくとか、条例をつくるとか、そういった手間が一つ要るようなものなのか、そのボリューム感をちゃんと部局として理解しておく、今、そういった作業をしているところです。

○ 豊田政典委員

その移譲事務とか、最終的な手続は別にして、事務作業的には整理、洗い出しはできているんですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

それについては、三重県のほうからもピックアップしていただいたりしておりますので、

またこれからちょっと増えるかも分かりませんが、今のところ把握をしておるところでございます。

○ 豊田政典委員

法律が変わったりして、多少増えるかもしれないけど、ざくっと分かりますね、これだけしないといけないと。ちゃんと把握しているんですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

資料として持っております。

○ 豊田政典委員

さっきの政策推進部の予算案のつくり方も、それから危機管理監が話していたコロナ対策もそうですけれども、皆さん、政策推進部が統括して進捗状況を管理して、中身も確認して進めていくのがこの事業ですね。100ある事業だとして、事務があるとして、そこまでって大体感覚で言えるじゃないですか。言えないの。半分も終わってないぜとか、もう8割準備できているので、いつでも来いとか。その答えは全くできないわけですか。状況を把握していないんですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

通常、基本的には2年間程度、やはり三重県のほうに研修とか、派遣というような形で勉強させていただきますので、そういったところは、実際に見て勉強していくというところは可能かと思うんですけれども、四日市市側である程度準備をしておかなければいけないというようなところがございますので、それが今現在ですと20程度ありますので、その辺りをやっていくというふうに思っているんですけど。

○ 豊田政典委員

最初から、聞いていることの答えが全く分かりませんが、聞きたいのは、もう何年もやってるわけじゃないですか、やろうぜと言い始めて。ここ2年の話じゃないですよ。事務が100あるとして、100の事務事業をやらないといけないと。それは正式に決定しなければできないこともあるかもしれない。あれかもしれないけど、そうでないやつもあるとい

う中で、新年度予算の審査なので、今どこまで来ていて、今度の1年間はどこまで行くんですかということを知りたかったのに、全体が見えない、答えを聞いていても。

何するのと聞いているんだけど。来年度もやるよ、再来年度もやるよって、何も分からない。

○ 大橋政策推進部政策推進監

まず、中核市の事務といいますか、業務でございますけれども、やはり中核市に移行するというふうなところがある程度決まっていけないことには、いわゆる県のほうも、こんなような課題があるとか、こんな事務でという部分の深い話というのがなかなかできていないというところがございます。今まで三重県と協議をさせていただいていたのが、いわゆる産業廃棄物不適正処理事案の対策工事の工事期間中に、もし移行するのであれば、移行したときには事務委託というふうな制度を活用できないかというふうな話を、三重県とも協議をずっとしてきたというところで、より具体的な中身というところまでは、実際にこういう業務があるよということは分かっているんですけども、課題というふうなところまでは話合いはできていなかったというような状況でございました。なかなか期間的にも、令和4年度には工事が完了するようになってきますと、実際にそこまでには中核市に移行するというのは非常に厳しい状況でございますので、そうなりますと、事務委託の話というのは、一旦必要性といいますか、そういったものがちょっとなくなってきました。

そこで、一応、三重県としても、中核市に移行するというふうな方向で、より具体的な課題についても考えていただけるようになりまして、それで課題とか、支障をピックアップしていただいたという現状がございます。ですので、以前から確かにずっと中核市、移行に向けて取り組んではいたんですけども、より中身の具体的な課題とか、支障という部分については、まだ三重県のほうからお示しというのはなかったような状況でございましたので。

実際に最近になりまして、こういう条例をつくっておいたほうがいいのか、こういうシステムが必要なんだというふうなところをいただいて、それについてやり取りを始めたというところが今年度でございまして、それを引き続き来年度もやっていくというふうに思っているところでございます。

○ 豊田政典委員

全体の状況は分かってきましたが、三重県は移行してほしくないの。今までは事務委託の内容ばかりやっていたので、中身にまでは踏み込んでいないと言うけれども、出してくれないとか、教えてくれないとか、やっていただけるとか、あまりにも下手なんじゃないですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

三重県が中核市になってほしくないということではなくて、恐らくその中核市になるというところを、ある程度市としてもきちっと打ち出していないと、三重県としてはそういった業務について、中核市になるか、ならないか分からないけど、何か情報を教えてくださいというふうな形にはなかなかならないというところでございまして、ある程度、中核市に移行するんだというふうに、本来なら明言をして、年度といたしますか、いつというところまでがまだお示しできていないというふうなところはございますので、その部分がありますので、三重県としても、そこまで情報提供というふうなのはなかったのかなというふうに思います。

○ 萩須智之委員長

ちょっとお待ちくださいね。この令和4年度の特措法の終了時期にジオキサン処理は完全に終わるという前提でお話しいただいているんですよ。けれども、これは確定したことじゃないのでまだ言えないということも、今のこのやんわりした答えの中に含まれるのかなということも、ちょっとお教えいただけますか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

そうでございます。一応、対策工事としては令和5年の1月には終わるというふうなところではありますけれども、その後の状況というのはかなり見極めていかないといけないのかなというふうに、我々も感じておりますので、そういった意味で中核市に移行するというのを、例えば令和5年度は移行できますよというふうなところで示すというのは、ちょっと厳しい状況であるというふうに認識をしているというところですよ。

○ 豊田政典委員

最後ですけど、話を聞いていると、どっちもどっちかなという感じで、もっと明快にこうぜという話ですよ、金を使っているんだから。少なくとも労働時間を使っているんだから。いつまでたってもうじゃうじゃした話しか聞けないのでは、市民にも説明できないし、やめといたらということになりかねないので、明快に行きましょう。

○ 荻須智之委員長

それと、すみません、地元が、三重県とは平成24年度に覚書をつくっているんですが、四日市市とは話す気がなさそうなんですけど、大丈夫ですか、全然話してもらっていないんですけど。これ、また4者協議会の予算とか、そういうのって取ってもらってあるんですか。どうですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

4者協議のほうは、環境部のほうになりますので、予算として私どものほうで取っているといるところではないものでございます。

○ 荻須智之委員長

これ、クリアしていただかないと進みませんが、佐藤部長が一番よくご存じなんですが、お願いだけしておきます。

○ 佐藤政策推進部長

なかなか中核市について明確なところが見えてこないじゃないかということで、ご心配いただいていると思うんですけども、今、委員長がおっしゃいましたように、工事は一応県としては令和4年度の末で終わりますということに、今のところ変わりはありませんので、それ以上のことについては、なかなかこちらに情報をいただけないというところがございます。

工事が終わったら、その後、どういう状態でどうするのかというのがなかなか分からない。その中で、産廃の処理の工事はちょっと置いておいて、それ以外の民生関係とかのいろいろな権限を頂けるもの、それについては随時、何をいつまでに準備したらできるなどというのは、昨年からかなり協議をしていただけるようになりまして、大体洗い出しはできてきております。

ただ、その工事の後をどう引き継いでいくかというところについては、これはちょっと交渉といたしますか、かなり何でもかんでも市から言っていけばいいわというものでもないと思ってますので、その辺はタイミングを見て、県と交渉を進めていきなないなと思ってるところでございます。

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。この跡地については、市が面倒を見られるということでよろしいのでしょうか。

○ 佐藤政策推進部長

ですから、そこら辺のことも含めて、三重県としてどうなのかというところは、まだなかなか見解も聞かせていただいてございませんので。

○ 荻須智之委員長

分かりました。ということは、まだそれも決まっていないので菌切れが悪いということです。

豊田委員、以上です。

○ 豊田政典委員

では、中核市移行、私のほうでは終わりにしまして、もう一個だけ。私の予定している最後の質問は、四日市港のことなんですけど、追加資料で樋口委員が幾つか請求されているのを見せてもらいましたが、もう少しざくっとした話なんですけど、決算のときにこんなやり取りを我々としております。答弁で、四日市港管理組合については負担割合だけでなく、組織体制の面からも変革が必要であると考えていると、県に対して働きかけを行っているという答え。

それから、どなたか分かりませんが、四日市港管理組合に多額の負担金を支出しているにもかかわらず、政策的には活用し切れていない印象を受けると言われた方もいる。つまり、金は毎年いっぱい出しました。これは市民目線で見ると、それがどういうふうに関に立っていただいているのか。もちろん無駄にしているとは言いませんよ。市民目線に見えにくいというのはあるかと思うんです。これが二つ目。

一つ目、お聞きするのは、半年前にこんな議論があった。体制的にも、負担割合の議論もあった。働きかけている。この半年でどんな展開があったのか、なかったのか。新年度は、その負担割合、体制についてどうされるのかというのが一つ目の質問。

二つ目は、その何百億円という負担金の生かし方が、市民には見えにくい。非常に見えにくい。これは、議会から4人の議員が行っている。いつも言いますが、議会側にも問題というか課題はあるんです。4人しか知らないことが余りにも多くて、これは議会内部で解決しなければいけない問題ですけど、それとは別に、執行部側も政策推進部が窓口になっているんだから、もう少し四日市港管理組合の動きを全議員に知らせてほしいなど、私は前から思っています。

四日市港の様子をもうちょっと教えてほしいなというのが二つ目、市民にも、我々にも。政策的に生かされていないんじゃないかというのは、物流中心の港なので、今のところ、変えていこうということになってますが、市民目線でそれがどう使われて、何がどうなっているのというようなところを強化してほしいなというのが、二つ目の質問です。

以上。

○ 佐藤政策推進部長

ちょっと私のほうから、最初に負担割合とかの関係で、昨年度から四日市港管理組合の体制にもう少しものを申せないかということで、いろいろ令和元年度のときは、県のほうとやり取りをさせていただきました。今年度でございませけれども、ちょっと残念ながら、今年度はコロナの関係もあってなかなかそのやり取りはできておりません。

ただ、電話で、体制をどうしていくかという、最終の目的というのは、今、市民のほうになかなか反映されていないんじゃないかというところの延長だと思うんですけれども、いわゆる一般市民が港で恩恵を受けるような事業に対して、一昨年度のときにはいわゆる基金を財源として使うとかというような格好でなかなか县市負担金で見てもらえなかったという状況がございました。

それはおかしいだろうということで、それは私も主張してまいりまして、この令和3年度予算に当たっては、例えば港まつりの事業でございませとか、今回も上げさせていただいていますみなとまちづくりプランの継続の事業に対する負担分、それについては県及び市の負担金のほうを財源として充てていただくというところは、反映をさせていただいておりますので、いわゆる市としてやっていただきたい事業に対して、きちっと県のほう

も負担金を充ててもらえるようになったのは、一つは進歩したのかなというふうに思っています。

私のほうからは以上です。

○ 豊田政典委員

今の話は、それはそれでいいんですけど、それよりも決算のときに中心的に議論されたのは、人事の話です。それから、負担割合。これについて、変革が必要である、働きかけを行っていると答えているんだもの。むしろここですよ。

○ 佐藤政策推進部長

働きかけは行っておりますけれども、はっきり申し上げて、来年度から例えば市のほうから部長級を送り込むというようなことについては、実現できておりません。

○ 豊田政典委員

そうだと思うので、来年度の意気込みを聞いているの。

○ 佐藤政策推進部長

来年度も引き続きやっていきたいと思っているんですけども、これ、なかなか電話でやるという話でもございませんので、県庁と行き来ができないというのは、ちょっと本当に私も今、困っています。

○ 豊田政典委員

電話では無理だと思う話なので、コロナ禍の収束を目指して、そこから頑張っていきましょう。議会は議会ですることができるかもしれないので。別に部長だけを責める気は全くないのでね。

○ 田中政策推進課長

四日市港負担金ということで、予算もお願いしているところですけども、それが市民にとってメリットが感じられているかどうかとか、そういった問題意識で言われていることだと思います。先ほど部長からもありましたが、例えばみなとまちづくりプランのよう

な、四日市港が親しまれるというような要素というのがやはり薄いというところが、市民にとって、その辺の恩恵を感じるのがちょっと薄めであるというところです。

今日もその資料の中で、意見募集の中で、いろいろそういったことについての期待感とか、開示してほしいというようなご要望的な意見も寄せられていると感じているところです。四日市港管理組合の負担金については、当然県と市が出し合った一部事務組合ですので、当然必要な負担金でございますけれども、市民にとってそういう親しまれる部分も、このみなとまちづくりプランの中で、四日市港管理組合と、市と、あと商工会議所が事務局になっていただきながら進めておりますので、そういった取組を来年度、そのまた先も続けていくことでアピールしていきたいとか、何か形になるものを生み出していきたいというふうに思っているところです。

以上です。

○ 豊田政典委員

今、お答えいただいた内容はそれで結構かと思いますが、もう少し広く、たまに総務常任委員会の協議会で議論の一端を説明していただくことがあるんですけども、それよりも、予算自体、我々、総務常任委員会で議論して可決しているわけで、本会議で可決しているんだから、もっとやっぱり1年に1回ぐらいは、こんなことをやりましたでもいいし、報告してもらおう機会があってもいいのかなと。

あまりにも、これは議会にも問題があると。もう一回言いますけれども、議会側で解決しなければいけない部分もあるんですけども、執行部側としても、いくら一部事務組合だからって、4人議員しか分からない、知られていないというところが多過ぎて、ブラックボックスになっているから、多額の金が行っているのにね。それはまた一緒に考えてほしいなど。

○ 森川 慎委員

四日市港の話が出たので、ちょっと違うんですけど、関連で、港のまちづくりの計画を立ててもらってという話なんですけど、一般質問でもしたんですけど、コンビナートとかすぐそばなんですけど、ここ、また人を集めていくんですか。安全対策とか、その辺は考えているんですか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

そういう、例えばイベント的にとか、憩いの場とか、そういったものが何か生み出せないかというようなことで、そのプランの検討をしているところです。

○ 森川 慎委員

市の方針として、ここに人を集めていくということでしょう。大丈夫なのかって、心配を私はしているんですが。

○ 田中政策推進課長

すみません、安全面ということでございますけれども、そういった点で安全面をどう配慮するかということも、当然考えながらというところです。だから、例えばゾーン分けとか、そういうところもそうですし、物流と人流が交錯しないようにとかというところです。

あと、非常時とか、そういう場合という観点もお持ちかと思っておりますけれども、非常時のときは、例えばどうやって避難するかというようなこととか、そういうことの周知もという意味でおっしゃっているのかなと思っておりますけれども、そういったことも配慮を必要だと当然思っております。

○ 森川 慎委員

いや、行政としてここに人を集めていくという方針なんですかということを知っているんですけど。コスモ石油のタンクまで数百mのところ、また人を集めていくのかなと、私は心配なんですけど。安全面を考えてもらうのは当然なんですけど、まちづくりの方針として、ここは絶対安全なんですか、人を集めることについては。

○ 田中政策推進課長

ちょっとおっしゃる意味が分かっていないんですけども、万が一とか、いろんなことを思ってという意味でございましょうか。

○ 森川 慎委員

南海トラフがいつ来るかというようなところで、コンビナートの事故も増えているよう

な現状で、いつ爆発が起きても、絶対ないとは言い切れない状況の中で、四日市市としてここを整備して、投資をして、人を集めてこうとしているんですけど、その方針は市としても変わらずに、それは大丈夫だって言い切れるのですかと聞いているんです。間違いありませんか、何かあった場合。

○ 田中政策推進課長

その何かというところの受け取りようというところかと思います。ちょっと言い方が悪かったら申し訳ございません、どこにいても何かはあるということでございます。四日市港というのはいろんな資源がございまして、うまく整備をして、人を導いていけば、魅力的な空間もできる。親しみを持ちたいとか、そういうお声もあります。みんなで話し合う中で何かできないかということで、そういうプランの検討もしているというところなんです。

安全面の配慮というのは当然してまいりますけれども、万が一みたいのところになってくると、そこにも近寄れないのかということですので、その部分については意に沿うことはできないかなと思います。

○ 森川 慎委員

全然私の趣旨を理解してもらっていない答えだと思って聞いているんですけど、こうやって投資をしていくということは、またこれから何十年とここに人が集まるようにしていくわけでしょう。商業施設を造ってきたりとか、そういうところまで望んでいるわけでしょう、行政として。まちの設計として。違うんですか。そういう中で、南海トラフとか心配されていて、コンビナートが爆発するというような事故も千葉県とかで起こって、そういう現状を見ていて、方向性として正しいんですかと。

安全だと言い切れるのだったら、進めてもらうのは結構ですけども、そういう認識を持っているんですかということをお聞きしているんですけど、趣旨が分からないですか。

○ 田中政策推進課長

お答えに困っておりますけれども。万が一というレベルになってきますと、そこで当然、いろんな活動というのは産業活動もしておられます。そういう憩いの場というのをつくっていけば、そこに集まる人もいるというところなんです。ただ、居住地にするとか、そういうことではございません。そういった活動に関して、四日市市のいろんな区域を使って、活

用していくということは、当然のことだと思います。

いざというときには、避難であるとか、日常的な安全面というのを当然配慮しなければいけませんし、コンビナートとか、いろんなそういうことについても防災体制というのはそれぞれにしておられるでしょうし、法的な規制の中で、そういうのを遵守してやっておられるかと思しますので、そういう意味では特に問題を感じているわけではございません。

○ 森川 慎委員

コンビナートの安全性とか、そういうことに全然思いを馳せていないなということがよく分かりました。もうちょっと考えていただきたいと思います。ここにこうやって投資していったら、おいそれとまた、ここに投資したところをどこかに移すなんていうことはできないわけで、資源があるから生かしていくと言うけど、何か起きて、居住地じゃないとはいえ、ここでいろいろなことをしていくわけでしょう、していきたいわけでしょう。

そういう中で、石油のタンクが幾つも並んでいるところから数百mしか離れていないところに、人をだんだん集めていいんですかと、私は問いかけているので。なかなか伝わらないみたいですがけれども、もうちょっとよく考えていただきたいと思しますので、よろしくお願いします。

○ 村山繁生委員

簡単な確認です。この追加資料の15ページの、みなとまちづくりプランの意見募集なんですけど、これは当該地区の世帯にはアンケートか何か配られているんですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

こちらの地区の連合自治会長さん等にご説明をさせていただいて、その中で、まず自治会長さんにも説明をしていただいているような状況でございます。

○ 村山繁生委員

自治会長で止まっているということなんですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

自治会長さんから下に行っているかどうかというところまでは、すみません、ちょっと

確認はできておりません。

○ 村山繁生委員

うちの会派の当該地区の議員からちょっと言われたので、当該地区にアンケートを配られているはずだと。そこからは全戸回収を目指すべきだということを言ってくれというふうに言われているので、てっきり配られているのかなと思っていたんだけど、違うんですか。自治会長に説明しただけのことなんですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

アンケートまでは配っていないということで、まず連合自治会長に説明して、連合自治会長が各単位自治会長のほうに説明をしていただいているというところでございます。

○ 村山繁生委員

話がちょっと違うなと思って。そうすると、14人から意見募集があるとしても、地域としての意見というのはまだ何も入っていないということですか。自治会長さんからもどうなんですか、その後、意見というのは。当該地区の自治会長さんからの意見というのはどうなんですか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

自治会長さんからの意見というのはなかったんですが、その地区の中からの意見というのは、この14名の中に入っていたというところでございます。

○ 村山繁生委員

その辺をもう少し、本当に一番関連しているところなので、もう少し意見を拾ってもらいたいなというふうに思います。

この意見募集された意見、これはいつ発表されるんですか。

○ 田中政策推進課長

現在、その意見に対しての見解というのをそれぞれ取りまとめようとしているところです。今年度いっぱいぐらいで、取りまとめた結果を出して、また、みなとまちづくりプラ

ンの成案をつくることに活かしてまいりたいと思っております。

○ 村山繁生委員

それと併せて、地域の意見をもう少し丁寧に、詳細に拾っていただきたいと思うんですが、よろしいですか。

○ 田中政策推進課長

この意見募集の周知という形でアプローチさせていただいている部分でしたが、その意見のほうについても、さらに拾っていくようにさせていただきます。

○ 村山繁生委員

以上です。

○ 森川 慎委員

意見を聞くのは当該の自治会の周辺の人たちだけなんですか。

○ 田中政策推進課長

直接的に関係する地域のほうにさせていただいています。それ以外の方って、広くこれ市民・県民ということでの意見募集ということをさせていただいておりますので、全般的な意見募集としては、今日紹介させていただいたような2月の意見募集でさせていただいております。

○ 森川 慎委員

分かりました。

○ 樋口博己委員

このみなとまちづくりプラン、14人、60件の意見が出たということで、今後、精査して発表いただくんだと思いますけど、構成団体が四日市商工会議所、四日市港利用促進協議会、四日市港管理組合、国土交通省中部地方整備局、四日市市というふうになってまして、先ほどアンケートというか、地域住民の意見をというお話があったんですけど、この構成

団体でいろんな協議する会議、この意見を踏まえて協議する中で、この構成団体以外のそういう団体なり、地域住民の方との意見交換とか、そういう場面というのは想定されるのでしょうか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

こちらのまちづくり協議会のほうには地域団体というのは入っていない状態です。それを補う意味で、先ほどのようなまちづくりプラン案を自治会のほうにご説明に伺ったというような理解です。

○ 樋口博己委員

それは理解するんですけど、例えばみなとまちづくり協議会で、こういう構成団体ですけど、そういうまちづくりに関係するようなほかの団体もいろいろあると思います。自治会も一つの団体ですけど、企業も含めてね。それこそ観光協会とか、いろんなことも含めて、まちづくりという観点からすると、いろんな意見をお聞きする場面も必要なのかなと思うんですが、そういう場面はもう日程的にないのでしょうかね。

○ 大橋政策推進部政策推進監

みなとまちづくりプランの検討委員会というのも、その協議会の下にございまして、そこには民間企業さん、そして観光協会さんですとか、そういった団体さんにも入っていただいております。

それと、大学生の方々とちょっと話す機会を設けさせていただき、そういったこともやっております。今までもやってきてはいるんですけども、そういったところで学生さんらしいアイデアといいますか、そういった意見をいただいているというような状況でございます。

○ 樋口博己委員

分かりました。しっかりと様々な立場の方のご意見もいただきながら、皆さんが将来、四日市の港をどうイメージしていくかということの集大成のようなプランを、ぜひともつくっていただきたいなと思います。よろしくお願いします。

これに関連して、四日市商工会議所主催のJR貨物四日市駅ツアーについて資料を出していただきまして、ありがとうございます。これは商工会議所の主催ということで企画されたツアーなんですけど、令和3年度に向けてこんなツアーというのは、商工会議所はお考えのようなことなんでしょうか。

○ 大橋政策推進部政策推進監

商工会議所のほうでも、これは続けていきたいとか、最終的にはそのまま大ナゴヤツアーズ実行委員会さんが単独でできるような形になっていけばいいなというようなところで進めていっておられるというふうには聞いておりますので、恐らく来年、再来年と続けていかれるのではないかとこのように感じております。

○ 樋口博己委員

これは、主催者は四日市商工会議所ですけど、大ナゴヤツアーズ実行委員会というのは、もともとこういう会社があって、運営を担っているという意味なのか、それともこういう企画のためにつくったんですかね。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

大ナゴヤツアーズ実行委員会というふうなところがその企画運営をしておるところでございますけれども、名古屋市を中心に活動しておられるNPO法人で、大ナゴヤ・ユニバーシティ・ネットワークというのがございまして、まちをよく知るための活動であるとか、生涯学習的な講座を開いたりというようなことをやっておられる団体だそうです。

そちらがまち歩きのイベントについて長けているとか、名古屋市を中心にそういうのをしているということで、商工会議所がそういうところとコラボして、そのノウハウも四日市市で生かしていきながらということで企画したんだというふうに伺っております。

○ 樋口博己委員

好評だったんだと思いますけれども、今日の読売新聞にもこのDD51の写真が大きく載ってまして、この企画で、来年度、今後も続くようであれば、四日市市もまずは協賛し

て、その先には少し、コロナも落ち着いた段階においては、より多くの方に四日市市にお越しいただけるように、少し支援もできるようなことも考えていただきたいと思うんですが、今後の展開のお考え、どうでしょうか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

みなとまちづくりプランの案とかをご披露したときにも、実際の実行につなげていってほしいというようなご意見もいろいろ頂戴したかと思います。具体的な取組を来年度や再来年度していく中で、こういったノウハウのほうも、商工会議所とも相談しながら盛り込んでいくというか——今は、何をどうするということはちょっと定まっていなくて言い切れないんですけれども——こういった良い催しの実績を、今後の港に親しまれる活動の中に盛り込んでいくとか、取り込んでいくみたいなことができればいいと思っております。

○ 樋口博己委員

ぜひとも支援いただけるような方向性を考えていただきたいなと思います。委員長にも少しコメントをいただけたらなと思います。

○ 萩須智之委員長

やはりずっとこの3事業、実行委員会形式のもんできた中でも浮き彫りになりましたけど、観光協会がいまいち弱いかなということで、こういう企画とかというのはまさに観光協会が本当は旗を振っていただくということで、商工会議所がやるにはちょっとつらいところもあるのかなというふうには感じていました。

今、樋口委員にいいところを指摘していただいたと思いますので、森川委員の言われる安全面をちょっとどけておいて、より人を寄せてくるという点では大いに頑張っていただきたいなと思います。

それをどけておいたのは、どけておいたほうで、また別途協議していただかないといけないわけですが、コンビナート地帯での観光について、部長、一言だけお願いします。

○ 佐藤政策推進部長

今、皆さん、ご存じのとおり夜景クルーズをはじめ、コンビナートの夜景というのは結

構四日市の観光の一つになってきているというのもございますし。これは、ずっと昔からですけども、なかなか四日市の市民の方が海辺で親しめるところがないというところで、何とか港のほうをもう少し市民が近づけるようにできる場所にできないかというのは、これは行政だけでなしに、結構市民の皆さんからの声としてもずっといただいているものと、私は認識しております。今回のこのプランをきっかけに、いろいろな安全面も考慮しながらそういう場所をつくっていききたいという方針で考えてございます。

○ 萩須智之委員長

コンビナートの危険性というのは、今あまり吟味されないということですか。

○ 佐藤政策推進部長

いや、危険性といいますか、当然コンビナートに関しましては、かなり厳しい法律がありますので、それに基づいて対応していただくというのはもちろんでございますけれども、その中でやれる範囲のことをやっていくということになるかと思えます。

○ 萩須智之委員長

ということですか。森川委員、よろしいですか。

じゃ、今回はこの辺でということ、港関連はこの辺りでよろしいでしょうか。

○ 樋口博己委員

四日市港霞ヶ浦地区北埠頭の整備の件で、資料ありがとうございます。最後の14ページの今後についてということで、これは令和2年度に1億円の調査費で、それを受けて令和3年度予算に向けた新規事業採択時評価手続に着手したと発表があったということで、前向きなことなんだと思いますが、これは、手続に着手したということは、時間がたてば、手続が完了して事業化になるという意味で捉えていいんですか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

国土交通省的には、ここに入ったからといって必ず事業化されるわけではないよというのは、そういう留保は当然あるんですけども、調査費から事業化する前には、手続上、

必ず採択していいのかどうかというのを検討するという場を国土交通省は設けていると。その議題にこの事業は入ったということで、手続としては、次の段階に行ったというふうに、私どもとしては理解しております。当然そのまた次というのが事業化ということになるかと思いますので、私どもはこれは非常に前向きな出来事だと捉えて期待感を持っております。

○ 樋口博己委員

そうすると、事業採択時評価手続きなので、調査結果を踏まえて将来性があるかどうかを評価するんですから、これは丸の場合もあるし、バツの場合もあるということですかね。

○ 田中政策推進課長

手続上はそういうことになります。

○ 樋口博己委員

手続上はという言葉が非常に微妙な表現だと思っておりますけれども、前向きに捉えているということですので、しっかり事業化できるように、ともども頑張ってもらいたいと思います。ありがとうございます。

○ 森川 慎委員

一言だけ言わせてください。意見を言うだけで議論する気はありませんので。四日市港になかなか市民が憩える場所がないとか、そういう声が寄せられていて、何とかしなければいけないというような話をされましたけど、もともとあそこはずっと砂浜で、それを、港を呼んできて、今みたいな港を造ったのは四日市市だということを、ぜひ忘れないでいてほしいということだけ言っておきたいと思います。

勝手に建ててしまったのではなくて、それは、もちろん時代的な要請とか、市民の後押しはあったんだけど、まずそこから始めてもらわないと、私は今の言いぶりはなかなか納得できなかったもので、意見を言わせてもらいました。答弁は結構でございます。

○ 荻須智之委員長

ありがとうございます。意見ということで承らせておいていただきます。

○ 森川 慎委員

総合計画の推進事業費、資料を頂いたので、ありがとうございます。政策課題の調査研究費200万円で、いろいろ社会実装の調査研究を行うと言っているんですけど、200万円で具体的にどういうことをするんですか。さっきの大学とはまた別の話なんですか。

○ 田中政策推進課長

資料6ページの総合計画推進事業費の内訳についてですね。その2の予算額の①政策課題の調査研究費というところです。政策推進課のほうで、それこそちょっと小規模に調査をしなければいけないこと。例えばということで、テーマ例として、そちらに先端技術の利活用であるとか、人口動態分析に基づく……。

○ 森川 慎委員

聞きたかったのは方法の話です。調査研究というのは、何を調べたいとかじゃなくて、どういう手法でこういうのを、調べたいことがあったから予算確保してもらったんだと想定はしますが、具体的にコンサルに依頼するとか、こういう費用だとか、そこを聞きたい。

○ 田中政策推進課長

コンサルに委託できる費用として確保しております。

○ 樋口博己委員

中心市街地拠点整備について4500万円ついていまして、令和3年度の基本計画で、併せて近鉄ホールディングスも並行して基本計画をつくっていくと思うんですけど。これ、基本計画を予算化、計上しているので、お互いが基本計画をつくるまでは、これは間違いなく合意している点ということによろしいんですかね。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。令和3年度の取組として、四日市市と近鉄グループがそれぞれに基本計画をつくっていき、それをすり合わせていくという作業を行っていきこうというこ

とは合意しております。

○ 樋口博己委員

そのすり合わせが完了するのは令和3年度中でいいんですかね。

○ 田中政策推進課長

我々はそういった目標を持って来年度やるというところです。

○ 樋口博己委員

令和3年度で図書館の基本計画ということなんですけど、一方で、総合計画、推進計画の中で、200人規模の小ホール、これは令和4年度に基本構想というふうになっているんですけど。私は以前から、新図書館の中に造るべきだなとは思っているんですけども、これも年度が違うということは、全く別のところにやっぱり小ホールを造るという前提、そういうふうになっているということですか。

○ 佐藤政策推進部長

まだまだその辺は全然決定はしておりませんので、今現在のスターアイランド跡地の図書館の入る予定の建物、その中にうまくホールなんかも合わせ込むことができないのかということについては、これについても近鉄ホールディングスさんのほうに対して、その辺も含めて検討いただきたいというのは、今申し入れております。

できるかどうかはちょっとまだ分かりませんので、それができないということであれば、また別ところで考えなければいけないということになってこようかと思えますけれども、一応どこかで基本構想をやっていきますよというのはありますけれども、場所についてはまだ決定をしているわけではございません。

○ 樋口博己委員

分かりました。部長からそういう近鉄ホールディングスとの協議の中で小ホールもということを答弁いただきましたので、大いに期待したいなと思えます。ありがとうございます。

○ 森川 慎委員

簡単に。スターアイランドの跡地に図書館を造るということ自体は、決定しているんですか。

○ 加藤政策推進課副参事

スターアイランドの跡地に新図書館を整備するということがもう既に決定しているのかというお尋ねでございますけれども、こちら、先ほど課長のほうからもご答弁させていただいたように、まず近鉄のほうとお互いに基本計画を令和3年度に立てまして、それぞれの条件であるとか、施設の整備方針であるとか、そういったことをすり合わせした上で、次の段階は恐らく設計とかという段階になってくるのかなと思いますけれども、そういった段階に進めるのかどうかということ、またそのすり合わせの段階で判断をさせていただくということでございます。

○ 森川 慎委員

これは庁舎の東に造るというところに、基本構想をつくって、だけど、場所は決まっていなみたいな形で進められていたのかなと思っているんですけど、そういうのと同じようなことでいいんですか。スターアイランドのところで確定だということを目指しているんですけども、そこに向けてこんなのを造っていきますというような構想を考えるといいんですね。

その辺、ちょっと分からないんですけど。

○ 加藤政策推進課副参事

今回立てさせていただく基本計画というのは、森川委員、おっしゃっていただいたように、スターアイランドの跡地に近鉄の建てられる施設の中に新図書館を整備する場合に、どういったものが整備できるのか。それを市としても検証するという意味での基本計画です。当然この基本計画に着手する、イコール、あそこに新図書館を整備するということが最終決定しているというものではございません。

○ 森川 慎委員

状況は分かりました。

○ 荻須智之委員長

よろしいですか。ほかはいかがでしょう。

(なし)

○ 荻須智之委員長

では、これより討論に移ります。討論がありましたらご発言願います。

(なし)

○ 荻須智之委員長

討論もないようですので、分科会としての採決を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

全体会へ送るか否かは採決の後にお諮りします。よろしいですか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

採決を行います。

反対表明がございませんでしたので、簡易採決とさせていただきます。

議案第70号令和3年度四日市市一般会計予算、第1条歳入歳出予算、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第1目一般管理費中秘書国際課、東京事務所、新型コロナウイルス感染症対策室関係部分、第8目企画費、第11目国際化推進費中秘書国際課、政策推進課関係部分、第8款土木費、第5項港湾費、第2条債務負担行為関係部分については、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

ご異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

続いて、全体会へ送るべきとする事項の確認を行います。いかがでしょうか。

(なし)

○ 荻須智之委員長

それでは、全体会送りはなしとさせていただきます。

[以上の経過により、議案第70号 令和3年度四日市市一般会計予算、第1条歳入歳出予算、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第1目一般管理費中秘書、国際課東京事務所、新型コロナウイルス感染症対策室関係部分、第8目企画費、第11目国際化推進費中秘書国際課、政策推進課関係部分、第8款土木費、第5項港湾費、第2条債務負担行為(関係部分)について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 荻須智之委員長

それでは休憩としたいと思います。

午後3時55分再開でよろしいでしょうか。お願いします。

15:41 休憩

15:56 再開

○ 荻須智之委員長

会議を再開します。

ここからは、政策推進部の補正予算の審査を行います。

議案第123号 令和2年度四日市市一般会計補正予算（第10号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第2款 総務費

第1項 総務管理費

第8目 企画費

第11目 国際化推進費中政策推進課関係部分

第24目 特別定額給付金費

第3款 民生費

第2項 児童福祉費

第1目 児童福祉総務費中新型コロナウイルス感染症対策室関係部分

第8款 土木費

第5項 港湾費

○ 荻須智之委員長

議案第123号令和2年度四日市市一般会計補正予算（第10号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第8目企画費、第11目国際化推進費中政策推進課関係部分、第24目特別定額給付金費、第3款民生費、第2項児童福祉費、第1目児童福祉総務費中新型コロナウイルス感染症対策室関係部分、第8款土木費、第5項港湾費についてを議題といたします。

本件は追加上程議案でありますので、資料の説明を求めます。

○ 田中政策推進課長

政策推進課長、田中です。

令和2年度2月補正予算ということで、説明をさせていただきます。資料でございますが、一つ戻っていただいて、04総務常任委員会の中の129（2月26日）追加配付、令和2年度2月補正予算参考資料（第10号）という補正予算参考資料のほうを開いていただけますでしょうか。129という名前のファイルになっております。

その35分の6ページ目を一旦開いていただけますでしょうか。

順番に個別事業調書のほうで説明させていただきたいと思います。まず6ページ、土地開発公社経営健全化基金積立金でございます。その基金の積立金というのは、基金の運用益を積み立てておるものなんですけれども、今年度に関しましては、土地開発公社は3月に向けて精算業務を進めておるわけなんですけれども、最終的な残余財産は市に帰属されるということで、公社が保有していた現金のほうを運用益とともに積み立てるという予算となっております。

年度末、この時点で公社の業務のほうがコロナの影響で少し委託料とかを余しているというようなことで、当初の見込みより保有現金が多くなっている。あと、運用益のほうも当初想定よりあるというところですので、合わせまして600万円ほど積立金の予算を増額しておく必要があるということで、補正予算を上程させていただいている次第です。

次、35分の26ページまで行っていただいでよろしいでしょうか。26ページは、四日市港管理組合負担金です。これは、先ほども議論いただいておりますが、四日市港管理組合の負担金を、今年度の分に関して執行見込みであるとか、それで減額になる部分、あと建設費に関しては国の三次補正に合わせて補正を行う等のそれぞれの項目に関して補正を組んでいきまして、トータルとしましては、3番の補正予算額でございますけれども、マイナスの467万5000円ということで、負担金の減という形になっています。

四日市港管理組合の全体の費用の内訳というのは、その26ページの下段のほうに表としてまとめさせていただいております。

この資料で説明するのは2項目になってございます。恐縮ですが、もう一回戻っていただきまして、次、別のファイルを開けていただきます。先ほどまで使っておりました013、政策推進部（追加資料）のほうを再度開けていただけますでしょうか。013政策推進部（追加資料）というところになってございます。

前段が、先ほどまでご議論いただいていたものになりますが、21ページからが補正予算の説明資料になってございます。27分の21ページを開いていただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

○ 萩須智之委員長

よろしいですか。お願いします。

○ 田中政策推進課長

21ページ、市制施行123周年記念市民企画イベント補助事業費でございます。今年度、コロナ禍ではございましたけれども、いろんな市民活動のほうをしていただきまして、補助上限100万円、対象経費の3分の2補助ということで、123周年の市民企画イベントを実施していただいております。

ただ、ちょっとこの状況下におきまして、予算いっぱいまで申請があったわけではございませんので、今後の執行見込み等も考えてまいりますと、このページの下段にありますように、1000万円の減額補正を出させていただいている次第です。1月時点ではございますが、どのような交付事業があったかというところを、次の22ページ、23ページにかけて、ざっと一覧表にさせていただいております。

ただ、まだ3月にイベントを予定しておられるというところもございますので、これはちょっと予算編成の1月末時点の資料でありますので、ちょっとその点をご承知おきください。

さらにめくっていただきまして、24ページ、次の項目は国際経済交流等関係経費になっております。昼前にもご質問いただきましたが、ベトナム、ハイフォン市との交流というほうの予算です。来年度もその辺、予算を置かせていただいておりますが、今年度に関しましては、特にちょっと事業を執行することができなかったということで、200万円減額補正ということでさせていただいている次第です。

次のページはコロナ対策室のほうになります。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

新型コロナウイルス感染症対策室室長、横山でございます。どうぞよろしくお願い致します。タブレットのほうは、引き続きまして、次ページの25ページでございます。項目につきましては、特別定額給付金の給付事業費並びに同事務費の減額補正でございます。昨年、いろいろと皆様にお世話になりましたこの給付金でございます。新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策といたしまして、4月の閣議決定の下に国民一人一人、10万円給付すると、こういうような事業でございました。

実績といたしましては、4月27日時点での四日市市に住民基本台帳を置いている方を対象として、当初でございますが、31万1961人と。支給件数、これは世帯数でございますが、14万1399世帯に対しまして、実際これは申請主義でございましたもので、金額といたしましては支給総額310億9620万円と、約1000件ほどのご申請のほうがなかったわけござい

ますので、その分を減額ということでございます。

今後、私どもの室のほうで事務用品費等の支出等もございますので、そこは引かせていただいて、事業費のほうは1億365万5000円。それから、もう一つ、事務費のほうでございしますが、これは国のほうから一つの交付基準がございまして、人口規模に応じて2億7330万円というところの金額の交付がございました。ただ、実際はそこまで使いませんでしたので、1億2135万4000円の減ということで、今回ご承認をいただきたいと思っております。

引き続きまして、次のページに移らせていただきます。よろしいでしょうかね、26ページでございます。独り親家庭等生活困窮の対策給付金給付事業でございます。先ほどの特別定額給付金と同じように、本来ですと、この給付金も一人一人届くわけですが、独り親家庭におきましては保護者の1人分が少なくなるということから、独り親家庭の緊急的な生活困窮対策といたしまして、昨年5月分の児童扶養手当の受給者に対して給付金を給付すると。

当初、約3000人を対象として9000万円の予算を頂戴いたしましたが、実際は今年2月1日時点、2896人として、8688万円、こちらのほうを総支給額としまして、若干遡って児童扶養手当のほうを受給されるケースもございますもので、60万円のほうは置かせていただいて、補正額といたしましては250万円の減額と、こういうふうなことでご審議のほう、いただきたいと思っております。

私からは以上でございます。

○ 萩須智之委員長

説明はお聞き及びのとおりです。これより質疑に入ります。ご質疑等がありましたら、挙手にてご発言願います。

○ 豊田政典委員

資料25、26ですけど、新型コロナウイルス感染症対策室の業務内容はワクチン接種だけなのかなという認識だったんですけど、そうじゃないんですね。こういう給付金とかも扱うんですか。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

先議のときの追加資料でも新型コロナウイルス感染症対策の組織ということでお話しさ

せていただいたんですね。一応4月27日時点での給付金の対象となる特別定額給付金、これがメインとして4月27日に発足して、専任の職員が6名、それから約25名の兼務の職員の体制としまして、感染症に関する施策の調整であったりとか、それから、特別定額給付金を含めて、ほかの給付金のほうも対象として、令和2年度、実務に携わってまいりました。

先ほどの令和2年5月分の児童扶養手当を受けていただく方のための、独り親世帯の生活困窮のための給付金をはじめ、そのほかにも、本来、商工課のほうが所管課でございましたが、中小企業向けの持続化の給付金、これは国の制度から漏れる方をこの四日市市のほうとしてサポートすると、これは7月からさせていただいております。

それから、もう一つ、国のほうの独り親世帯の臨時特別給付金と、こちら8月のほうからさせていただいて、国の制度から漏れる方に対しての給付金のほうを進めております。先ほど申しました持続化給付金と、それから、この独り親世帯の臨時特別給付金のほうも含めて、この2月末のほうで置いております。ワクチン接種につきましては、1月になりましたから、健康危機管理対策本部員会議の中にワクチン接種部会、これが発足いたしましたので、その業務を1月になってから、新型コロナウイルス感染症対策室のほうで事務局として承らせていただいていると、こういうことでご理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。

○ 豊田政典委員

給付金関係は新型コロナウイルス感染症対策室が一手に請け負っていて、それがスタートで、後からワクチン接種が来て、これも一緒に併せて担当することになったと、そんな流れなんですか。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

先ほど申しました持続化給付金は、本来、商工課のほうの所管であって、もう一つ、独り親世帯の臨時特別給付金、これはこども保健福祉課でございましたんですけども、通常業務等のこともございましたもので新型コロナウイルス感染症対策室の持続化給付金が7月、それから独り親世帯の臨時特別給付金のほうが8月に引き受けさせていただいて、これがずっと継続してで来させていただきました。

ただ、ワクチン接種のこの業務というのは国から話がございましたもので、その事務局

を仰せつかったのが1月からと。12月22日に発足して、1月から実務のほうが始まったというふうなことでご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○ 森川 慎委員

個別給付金なんですけど、4月28日以降に生まれた子供たちにもというような話を一般質問でもあったし、この委員会でも結構言わせてもらったかなということで、結局は実現はしていただけなかったんですけど、検討とかというのは一切なしですか。できなかったというのは、ちゃんと正確に、こういうことで決定に至りませんでしたということだけ聞いておきたいんですが。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

そうですね、まず、今回の給付金、特別定額給付金、それから、ほかの持続化給付金、独り親世帯の臨時特別給付金のほうにつきましても、コロナのほうの影響を受けて生活困窮というところの給付金ということでの事業でございますので、28日以降生まれた方、何らかの影響があるか、ないかというのは、ないことはないと思うんですけども、制度の趣旨からいきますと、新しく生まれまして新生児の方の給付金ということに対しましては、市といたしましては検討はさせていただきましたけれども、事業としては開始させていただかなかったというふうにご理解いただきたいと思います。

以上です。

○ 森川 慎委員

あまり理解はできないんですけど、残念に思っていますということだけです。

以上。

○ 萩須智之委員長

よろしいですか。ほか。

○ 樋口博己委員

26ページの独り親家庭生活困窮のほうの給付金なんですけど、これは児童扶養手当受給

対象児童1人につき3万円で、対象者が3000人ということで、事業としてスタートしたかと思っています。結果的に1896人で、まだ少し申請があるかも分からないので20人置いているんですけど、すみません、ちょっと僕、記憶が定かじゃないんですけど、この3000人の根拠はどういったものだったんでしょうか。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

この数字についての根拠といたしましては、ちょっと古いんですけども、前回の国勢調査のときの人数、2900人ちょっとですけども、そこをもう少し増やさせていただいて、3000人という設定で置かせていただいたものですから、9000万円ということでの予算のほうをつけていただいたということになっております。

以上です。

○ 樋口博己委員

これ、対象者が、本来、児童扶養手当を受給できる資格があっても、その当時受給していないけれども、こういったことを通して申請されて、現実に今受給されているという方がお見えになると思いますけれども、当時、この数字は何の根拠なんだという話が、議論があったかと思いますが。結果的には、およそ見込みだったんだろうという、ちょっと感想です。

こういった数字も、今後、しっかり参考にしながら、的確な給付ができるように頑張っていたらと思います。

○ 萩須智之委員長

よろしいですか。ほか、いかがでしょうか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

別段ご質疑もないようですので、これより討論に移ります。

討論がありましたら、ご発言願います。

(なし)

○ 荻須智之委員長

討論もないようですので、これより分科会としての採決を行いたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

なお、全体会へ送るか否かは、採決の後にお諮りします。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

では、原則どおり採決を行います。反対表明がありませんでしたので、簡易採決とさせていただきます。

議案第123号令和2年度四日市市一般会計補正予算（第10号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第8目企画費、第11目国際化推進費中政策推進課関係部分、第24目特別定額給付金費、第3款民生費、第2項児童福祉費、第1目児童福祉総務費中新型コロナウイルス感染症対策室関係部分、第8款土木費、第5項港湾費については、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

ご異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

続きまして、全体会へ送るべきとする事項の確認ですが、いかがでしょうか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

なしの声をいただきましたので、全体会送りはなしとさせていただきます。

[以上の経過により、議案第123号 令和2年度四日市市一般会計補正予算（第10号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第2款総務費、第1項総務管理費、第8目企画費、第11目国際化推進費中政策推進課関係部分、第24目特別定額給付金費、第3款民生費、第2項児童福祉費、第1目児童福祉総務費中新型コロナウイルス感染症対策室関係部分、第8款土木費、第5項港湾費について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

議案第129号 令和3年度四日市市一般会計補正予算（第1号）

第1条 歳入歳出予算の補正

歳出第4款 衛生費

第1項 保健衛生費

○ 萩須智之委員長

続きまして、議案第129号令和3年度四日市市一般会計補正予算（第1号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第4款衛生費、第1項保健衛生費についてを議題といたします。

本件は追加上程議案でありますので、資料の説明を求めます。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

新型コロナウイルス感染症対策室長、横山です。引き続きよろしく申し上げます。タブレットでございますが、04の総務常任委員会、132、2月26日追加配付の令和3年度当初予算の補正予算参考資料、第1号の、ページのほうは8ページ、並びに9ページでございます。

それでは、資料に基づき説明させていただきます。まず、今回のワクチン接種事業におきましては、先般から既にいろいろと先議のほうでもご審議いただきまして、令和2年度補正、この分の先議分につきましてはご承認いただきまして、ありがとうございました。今回は、令和3年度の当初補正ということでご説明をさせていただきたいと思っております。

目的につきましては、ご承知のとおり、新型コロナウイルスの感染予防ということでワクチ

ン接種、国の指導のもとに進められております。内容でございますけれども、まず2月補正のほうの先議分のほうは、こちらで既に説明させていただきましたが、それに関連しまして、令和3年度当初におきましては、まず会計年度任用職員、パートタイムのほうを2人、485万円。それから、既に2月の補正のほうでも説明させていただきましたが、令和3年度につきましての1市3町、共同運営でございます予約システム、コールセンター、それから接種券の消し込み作業等につきまして、令和3年度分3億6500万円、そのうち3億円分が四日市市分でございます。

それから、接種会場運営とか、あと集団接種の場合の送迎バスとか、ワクチンの移送管理、医師、看護師の従事者の派遣になるとか、そういったもの、これにつきましては、11億4986万円というふうなことで計上させていただいております。トータルといたしましては、約15億2000円万弱ということでございます。

また、重複いたしますけれども、先般の先議のときにも説明させていただきましたが、若干スケジュールのほうも、先ほど、冒頭に午前中、佐藤部長のほうからも話がありましたが、変更等もございますけれども、お話しさせていただきます。

右のほうで想定スケジュールでございますけれども、1番でございますが、これは羽津医療センターのほうで既に接種のほうは2月19日から開始と。2番目でございますが、3月のこの週ですね、医療従事者等を対象といたしました優先接種のワクチンが今週、来週と入っております。一応対象としましては約9400名いらっしゃいます。3番以降でございますが、既に報道等ございますけれども、高齢者向け優先接種が、市におきましては65歳以上8万人と、うち5000人が高齢者介護施設での施設内接種のほうを予定しております。

ただ、4月になりましてから、県内としましても全体的に22箱、11ユニットしか来ないということで、今後、非常にこの辺のスケジュール感というのはだんだんと遅れてくるかなというふうに考えております。

4番であります基礎疾患の方、一応国のほうの係数を算定しますと約2万人いらっしゃいますが、この辺も大分遅れてくるかなと。併せまして⑤のほうでございますが、ちょっと人が抜けていますが、4700人は高齢者施設等の従事者、この優先接種を3番の高齢者施設の方の入所している方と一緒に、言わば集団感染を予防するという意味で、効率的に接種したほうがいいんじゃないかということも医師会とも協議させていただいて、今現在、その高齢者施設のほうに何人の方が対象となるような方、当然のことながら、これは本人の同意が要りますので、そういった方々も受けていただけるという同意のある方を、今集

計させていただいていると。

そして、やはり先ほど申しましたように、このスケジュールが非常に遅れてくるかなというところで、一番下、約20万人弱、これは16歳未満の方も入っていますが、当面は16歳以上が対象でございますけれども、さらにこの開始のほうが遅れてくるかなというところで、日々刻々と国のほうからの説明、ワクチンの入手というものも変わってきております。そういったところに適宜対応していきたいというふうに考えております。

私からは以上でございます。

○ 萩須智之委員長

ちょっとこれ、確認させていただきたいんですけど、消し込み作業のときに、個人識別にマイナンバーとかって使われるんですか。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

これ、今、国のほうからも、内閣府の用意するそういうシステムのほうがマイナンバーと連携づけて消し込みというところまで、ちょっとすみません、まだ確認が至っておりません。申し訳ございません。

○ 萩須智之委員長

分かりました。

それでは、説明はお聞き及びのとおりです。これより質疑に入ります。

ご質疑等がありましたら、挙手にてご発言願います。

○ 樋口博己委員

9ページのほうで、四日市でのワクチン接種想定スケジュールですけれども、2が始まって、具体的には、四日市としては3からが本領発揮だと思っておりますけれども、こういう高齢者、基礎疾患のある方、高齢者施設の従事者ということで、6が一般、それ以外の方になっていきますけど、6は19万6000人、子供を含めての人数ですけど、残りの方の接種の優先順位とか、そういうのというのはあるんですか。

○ 須藤政策推進部参事（新型コロナウイルスワクチン接種担当）

須藤でございます。よろしくお願いいたします。

今お尋ねいただいた高齢者以外の、⑥番のところでございますが、まだちょっと国のほうもワクチンの供給量がはっきりしない中で、状況によっては、例えば60歳から64歳の方だけ、多ければ基礎疾患のある方と同時期に実施していくこともあるというような優先順位の書き方がございまして、それ以外の年齢の方につきましては、まだ具体的に示されておりません。

そのこのところ、今後の進め方は、どこの市町、高齢者もそうなんですが、ワクチンが限られていると、年齢の高い方から受けていただくのかとか、あと、それから国が職域ということも今、会社で受けるというようなこともちらちら。これは何も文書は来ていませんので、私どもも報道等でそういうことも言われていると、大臣のいろんな発言等もございしますが、そういったところもございしますので、まだまだちょっと確定的なところがお答えできないのが申し訳ないんですが、確定次第、随時その点についてはまたご報告をさせていただきたいと思っております。

○ 樋口博己委員

⑥に関しては、いわゆる高齢者以外ということなので、60歳から64歳という話もありましたけど、これはどうなんですかね、基礎自治体で、ワクチンの量にもよりますが、結構ある程度裁量が任されているんだというふうに、僕は捉えているんですけど、その辺の受け止め方、どうでしょうか。

○ 須藤政策推進部参事（新型コロナウイルスワクチン接種担当）

裁量というか、その辺りは確かに自治体のというところ。ただ、やはり近隣の、いつも市町の情報交換会、実は毎週リモートで行っているんですが、どこの自治体も悩みどころは同じでございまして、同じ四日市市でも鈴鹿市に近い方、それから病院でも桑名市にかかってみえる方とか、いろんな方がいらっしゃいますので、その点はやっぱり四日市市の方角性というところもございしますが、近隣との関係とか、それから、いろんなところに受診されている方もいらっしゃいますので、そういう情報、それから国の情報、そういったものを常にアンテナを高くして収集して、また決めていきたいと考えております。

○ 樋口博己委員

様々なところでいろんなご意見はあるかと思いますが、一つの提案として、子供たち、16歳以下は、まずは接種しないということになっていると思います。子供たちを打たないとする、例えば教育、学校の先生とか、あと保育士、幼稚園の教諭とか、いわゆるワクチン接種をまずは想定していない人たちと接する人たち、ここが優先順位が高いのかなと、私は思っているんですけども、そんなような議論も周辺市町と協議をされるということでもよろしいですか。

○ 須藤政策推進部参事（新型コロナウイルスワクチン接種担当）

樋口委員からは、そういったいろんなワクチンは接種していない年齢であったり、クラスターにつながるようなことにならないように、先に受けていただいたらどうかというようなご意見かと思いますが。その点については、どの年齢もそうですが、クラスターという観点は常に持ちながら、かつ、やはり先ほど申し上げましたが、他市との状況であるとか、やはり感染症予防というのは、やっぱり近隣とも大きく影響してまいりますので、そういったところも含めて、そろえてというか、情報交換をして、四日市市に合ったやり方というのを考えていきたいと思っております。

○ 樋口博己委員

分かりました。他市町と歩調を合わせてというのは、別に四日市市独自でいいのかなと思ったんですけど、感染予防と言われると、ちょっと保健師の方に言われると、これはそうだなと思っているんですけど。その辺は、優先順位をどうあるべきかを近隣市町とよくご相談いただいて、効果的な接種方針を見定めていただきたいと思います。お願いします。

○ 村山繁生委員

とにかく、入荷状況がまだ何もはっきりしないので何とも言えないと思うんですけども、幾つかのパターンを考えて、看護師と医師の配置のめどは、今もうある程度立っているんですか。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

まず、今回のこのワクチンがファイザー社製ということで、いろいろ報道がございますように、非常に扱いが難しい。冷凍冷温庫で保管、そして移送とか、そういうことを考え

まして、もう一つは希釈といいまして、薄めるとか、医療行為というか、そういう行為が伴いますと、なかなか個別が難しいという想定があつての国のお示し。

そして、医療関係団体とも話をする中で、集団接種のほうが望ましいんじゃないかなというところで、以前からも、あさけプラザ、橋北交流会館、四日市市総合体育館、ヘルスプラザ、三浜文化会館、そして中央分署、ここは一応、中央分署は除きますけれども、貸室系、貸し館予約の関係もありましたものですから、ホームページ、そしてまた皆様のほうにもお示しをさせていただいて、一旦ちょっと貸室系のほうは見合わせていただきたいということでお話しはしてきております。もちろん、そこも中心に考えながら、市域のバランスを考えつつ、ほかの市の公共施設であったり、あるいは民間施設のほうも考慮させていただきながら。

ただ、皆様のほうに、こうなつたということは、ちょっとまだ今、各機関のほうとも調整中でございます。

もう一つ気になるのは、やはり、桑名市で個別接種といいまして、個人クリニックさんのほうで受けていただく。非常にこの四日市医師会、その中の傘下といたしましては200名を超える、そういう会員の方がいらっしゃいます。そうなつた場合においては、やはり高齢者の方はきめ細かな対応を考えようと思うと、通常、例えばかかりつけ医がみえらなつたら、個別接種のほうが望ましいということも当然考えられますので、そういうところも今現在、調整中でございます。

ですので、ちょっとまだ本当に皆様にとつても、そういう情報を一番欲しいなという思いか分かりませんが、近々何とか調整させていただいて、確たるところをお示しさせていただきたいと思つたので、ご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○ 村山繁生委員

結局、今、市として医師会とか、協力してもらつて集団接種で6か所ですね。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

正直ワクチンの入荷の状況、当初の数といいまして、人口10万当たり、トータルでいくと、大体週1万8000回ですので、人でいうと9000人分というのが、お示しがあつたんですが、ちょっと若干これも変わつてきまして。そういうところが仮に来たとする想定の中で、

医師の先生方、看護師の方々に班を組んで、1人の医師、そして看護師さん2人、薬液の方を入れて、これを1班とすると、先般の答弁でも1日700人という話はさせていただきました。

これ、2班で700人という答弁をさせていただきました。こういうところの、先ほどの集団接種の会場で、何人ぐらい、1週間の接種の数を打っていけるかというところをシミュレーションなんかを組ませていただいて。ただ、これも国が本当は1時間二、三十人が限界かなというところもありつつ、ただ、医療関係団体のほうとは、もう少し行けるのではないとか、そういういろんなことを想定して、これだけワクチンを打つためには、これだけの施設が要る。それがまた足りない場合は、あるいは個別のクリニックさんにもお願いしないといけないとか、そういうところにつきまして、今調整といいますか、具体的なところの数字をもって、今後また医師会のほうとも調整していかないといけないと。

そういう意味では、ある程度は、今、そういうところが進んでいるということでご理解をいただきたいと思います。

以上でございます。

○ 村山繁生委員

分かりました。本当に日々情報が変わってくるので、大変だと思いますけれども、しっかりとよろしく願いいたします。

○ 森川 慎委員

確認させてほしいんですけど、このスケジュールのところ、1番はもう終わっているのかどうかということと、2番は確実に実施ができる見込みなのかどうかということを確認したいです。このスケジュール、国の医療従事者先行接種というのと、市の医療従事者優先接種というところですけども、期間的にはもう1番なんかは終わっているのかなと思うんですが。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

1番、これは羽津医療センターのほうなんですけれども、大体人数でいうと600名程度、全体みえるそうなんですけど、全員が受けるというわけじゃございませんし、当然順番どおり打っていくということになっております。今のところ、人数の把握ははっきりとしてお

りませんが、順番で行くところの1回目の羽津医療センターの方は接種を終えているというふうな状況です。

2番のほうにつきましては、これはまだ本当にこの今週あたりから入ってきたばかりでございまして、まだ現在ちょっとそこまでの具体的な数までは把握しておりませんが、まだまだ、今は初期の段階だと思います。

○ 森川 慎委員

2番の方向けのワクチンの数というのも分からないんですか。一番最初の、今日の冒頭に言ってもらったのは、高齢者向けで、3回の中で三重県には1万人分しか出てこないんだという話は部長からしていただいたんですけど、2番のところのめどなりというのは、出ていない状態なんですか。

○ 須藤政策推進部参事（新型コロナウイルスワクチン接種担当）

四日市市の医療従事者、先ほど委員がおっしゃられたとおり1万人を超えている方がいらっしゃるんですが、実は当初予定では、私ども市の職員も含めて3月中に入ってくるということだったんですが、そのワクチンが県のほうから、20%ぐらいしか入ってこないというようなことをお聞きしております。

今週の多分どこかで多分6箱入ってきていると思いますが、数が少ないですので、全医療従事者に渡らないというところ、それから、多分、河野大臣が高齢者を始めるという会見をされたときに、医療従事者と並行してやっていくというようなご発言も出ていましたので、医療従事者自体も終わらずというか、恐らく4月に少し高齢者向けのが入ってくるという状況で、ちょっとまだその辺りも、私ども、毎日情報が本当に変わってまいりますので、今ちょっと正確なことをお伝えできないですが、かなり少ないということはお聞きしております。

○ 森川 慎委員

分かりました。市も困っているんですものね、我々が言ってもどうしようもない。

あともう一点だけ。集団接種の会場なんですけど、この間の委員会の中では、地域的なバランスのお話をさせてもらったんですけど、後でちょっと気がついたんですけど、この各会場というのは、例えば駅であるとか、バス停であるとか、そういうのというのはある

んですかね。というのは、まず高齢者が始まっていくと。その中で、車の運転、家族と誰か同居しているとか、運んでくれる人が見えたらここでもいいんですけど、その辺の心配があるんですが、どうなんですか。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

まず、先ほど私が申しました6候補地につきまして、結果的にバスに近いところもあれば、見てみますと、あさけプラザもバス停は若干近いというか、近いところもあるらしいです。橋北は、すみません、申し訳ないです、確認不足ですが、ちょっと遠いかなと。四日市市総合体育館は日永ですので、これは国道1号沿いにバス停はあるかなと。三浜文化会館、それからヘルスプラザ、中央分署、この辺につきましても、私ども、想定はまず駐車場があるというところで言うておりますので。

ただ、中央分署、正直に確認しますと40から50台ぐらいしかございませんので、場合によっては接種できる1時間の想定人数が50人から100人ぐらいとなってくると、当然、広い駐車場を確保しなければいけないということで、中央分署はなかなか停めにくいんですが、そういう少ない駐車場のところにつきましては、先ほど予算のほうでもありましたが、バスでどこかに発着場をつくりまして、そこからピストンで送るとか、そういうところも想定しております。

以上です。

○ 森川 慎委員

駐車場の云々はいいいんですけど、例えば高齢者の方だけで暮らしてみえて、もう運転はしないというところもたくさんあると思うんですね。そういう中で、公共交通機関が使えないというような場所だと、実質的に行けないと思うんですよ。今、ちょっと確認していただくという話だけど、バス停があるにしたって、どこから路線がこうやって走っているか、四日市からちゃんと確実に出ているかどうかも含めると、なかなか車を手配できない人にとっては難しいのかなと思うので、心配なので、また考えて欲しいのと、今ちょっと村山委員が言っていたんですけど、この8ページのところに送迎バス運行と、(1)の表の下から三つ目ぐらいの大きい枠の中にあるんですが、これはそういうのとはまた違うバスですか。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

先ほど申しました駐車場が少ないというところに対しましては、大きな駐車場を確保させていただいて、そこで発着場として、車で来ていただいて、そこから出発という、そういうところを想定しております。

以上です。

○ 森川 慎委員

そうすると、そこもピストンして、パーク・アンド・ライドしてもらえるところまでどうやって行くのかということも、やっぱりよく考えていただきたいと思います。この会場のままだと、ちょっと物理的に行けないという人がいっぱい出てくるんじゃないかと、私は思いますので。私は歩けないので、選挙に行かないわというような方もいっぱいいるので、そういうのを考えると、ちょっとあれかなと思って。

○ 横山新型コロナウイルス感染症対策室長

ありがとうございます。一つ、実はそういう想定の中で、高齢者の方で、要は例えばかかりつけ医を持っている、そういう疾患を持っている方、そういう方が中にはいらっしゃる、例えば先生方が往診しているというところも結構いらっしゃいます。特に高齢者の方は、ある程度かかりつけ医を持っている。さらに、おうちのほうにずっと介護が行って、なかなか動きにくいという方については、実は今現在、先ほども高齢者のほうの接種を希望される方の把握と並行で、医師会さんを通じまして、在宅要療養者の65歳以上の方、要はふだん往診なんかをされていて、もしそうやって先生方が行っていただいて、打っていただけるような方がいらっしゃるのであれば、それも実は今人数のほうを把握させていただいております。

ただ、健康でなかなか交通手段がないという、森川委員のおっしゃる方、その辺についてもちょっと、こちらのほうでは何らかのフォローができるように検討したいと思いますので、ありがとうございます。

以上でございます。

○ 森川 慎委員

懸念を伝えさせていただいたので、いろんなことがあって大変だと思うんですけど、ぜ

ひよろしくお願ひしたいと思ひます。

○ 樋口博己委員

先ほど来、森川委員が高齢者の方の移動ということで質疑されていらっしやいました。これは、ある意味、ワクチンだけではなくて、政策推進部だから私は発言するんですけど、高齢者の方がワクチン接種する、いろんな移動手段をやっていく中で、今後、どんどん高齢化する中で、買物であるとか、基本的には生活する上で、移動手段をどう確保するかという観点については、すごくいいモデルケースになると思うんです。

だから、これはコロナウイルス担当で、データというか、個人名じゃなくて、そういう移動動向を政策推進部としてはしっかり捉えていただいて、今後のまちづくりの一つのモデルとして捉えていただきたいなと思ひます。これは要望させていただきます。

あと、注射器なんですけど、これは今、ワクチンがどんなに来るといふ話とともに、国の先行の医療従事者接種までは、1バイタルで6回分の注射器は確保しているという話は報道ベースも出ていますけど、その後の注射器はどんなふうになるのか。そんな情報、来ていますか。

あと、ファイザーなんですけど、これマイナス70度前後となっていますけど、これはマイナス20度前後と、これも報道が出ていますので、その辺のところでは少し対応が、集団接種以外でも、個別接種をするにしても体制が取りやすくなると思うんですけども、その辺の感覚をお聞きしたいと思ひます。

○ 須藤政策推進部参事（新型コロナウイルスワクチン接種担当）

注射器につきましては、ロスがないような6回分の注射器は、国のほうが今発注しているという状況で、私どもに今来ている資料に関しましては、全て5回分、1回ロスが出るというものの状況です。

今、それは全国的に同じで、例えば注射器や針やシリンジなんですけど、なかなか手に入りにくい状況がありまして、やっぱりその辺は国もある程度考えていただいて、各市町に行き渡るようにと。それから、不確定な情報ですけども、国がまとめて企業にお願いをして、確保でき次第出てくるというような感じで受け止めておりますので、今も1バイタルで5回接種の想定です。

県のほうも、今回、ワクチンは何箱か出てきておりますが、全て5回の計算で、こちら

のほうには指示をいただいています。

それから、ファイザーのワクチンの取扱いについては、本当に最初の頃は厳しい条件でありました。委員がおっしゃられたとおり、マイナス20度の冷凍庫でというところも変わってまいりましたし、あと移送の方法なんかも具体的に示されておりますので、当初よりは扱いやすい。ただ、やはり貴重なワクチンですので、その辺については、私どもも慎重に変わった情報を、やっぱり今後、取扱いのシミュレーション、それは医師会をはじめ薬剤師会とか、いろんな団体さんも一緒に勉強していこうというところで、職員も入りながら、新しい移送方法、それから保冷、冷凍方法等、変わってきたことに的確に対応できるように準備を行っております。

○ 樋口博己委員

様々、日々変わる中で対応いただいています。ありがとうございます。その上で、部長におかれましては、大変な業務に神経を擦り減らしていると思いますので、いろんな形で職員の様子をしっかりと見守っていただきながら、適宜、休憩を取るなり、そういう指導もお願いしたいなと思います。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

対策室は大変ご苦労さまです。それで、ちょっと確認だけなんですけど、②の医療従事者等となっているのを、例えば消防・救急隊員とか、そういうところが入っているんだろうなと思うんですが、それは間違いないですか。

○ 須藤政策推進部参事（新型コロナウイルスワクチン接種担当）

入っております。

○ 笹岡秀太郎委員

ありがとうございます。

それで、さっきから森下東京事務所長と目が合ったんだけど、東京事務所はどうされますの。感染の集中地域なんだけど。

○ 森下東京事務所長

私どもの接種ですよ。そのご質問だと思うんですけども、私ども職員4名おりますが、うち2名は東京に住所を置いておりますので、東京の接種券の配付になると思います。あと2名は四日市に住所を置いてありますので、四日市から接種券が来るんですが、今ちょっと未確認の情報でございますが、東京に在住している者が住所を地元置きながらというのいるということを知っておりますので、その者は東京で受けられるようになるだろうというふうなことを、ちょっと聞いております。

ただ、何にしろ、私どもはまだ65歳には行っていませんので、高齢者の扱いじゃないので、ずっと後のほうになるのかなとは思っております。そこは年齢だけで、地域差というのは何もございませんというところでございます。

以上です。

○ 笹岡秀太郎委員

65歳以下でも、大変な地域で最前線で活動してもらっているの。部長、ちょっと考えておいてやらないと。要望です。

○ 豊田政典委員

資料を見ながら、財源のことを確認するだけなんですけど。9ページの3番、財源が書いてあって、一般財源8288万円、これの歳出内容はどういうことなんですか、一般財源分。

○ 田中新型コロナウイルス感染症対策室室長補佐

新型コロナウイルス対策室、田中です。よろしくお願いいたします。

一応国のほうからは、この接種に係る費用については全額国で見ますというようなことも言ってもらっている中なんですけれども、現在、国から示されている補助金の上限額とか、そういったところから計算した額になっておりますので、ちょっとこれはまた国からいろいろ金額が示され次第、できるだけ一般財源にはならないような形に修正というか、変更していくような形になるかと思っております。

○ 豊田政典委員

そうすると、今示されている金額の上限からはみ出る金額を書いたということですね。

なぜかという、先議のときにも、コールセンターの金が一般財源持ち出しだったんですよ、その時点で。その後、テレビニュースなんですけど、菅総理がワクチンの経費は全部俺が持つぜと言っていたもので、どうなったのかなと思って。これは後で調整があるのではないかということで、理解します。

質問は終わりですけど、さっきホームページの修正をやってもらいましたが、まだ一部しかできていないので、日永とか、三重とかがまだなので、急いでやってもらえると。よろしくをお願いします。

○ 萩須智之委員長

よろしいでしょうか。ほかによろしいですか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

それでは、ご質疑もないようですので、これより討論に移ります。

討論がありましたらご発言願います。

(なし)

○ 萩須智之委員長

討論なしということですので、分科会としての採決を行いたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なし)

○ 萩須智之委員長

なお、全体会へ送るか否かは、採決の後にお諮りします。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○ 荻須智之委員長

反対表明がありませんでしたので、簡易採決とさせていただきます。

議案第129号令和3年度四日市市一般会計補正予算（第1号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第4款衛生費、第1項保健衛生費については、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

（異議なし）

○ 荻須智之委員長

ご異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

続きまして、全体会へ送りにすべきとする事項の確認ですが、いかがでしょうか。

（なし）

○ 荻須智之委員長

なしの声をいただきました。それでは、全体会送りはなしとさせていただきます。

[以上の経過により、議案第129号 令和3年度四日市市一般会計補正予算（第1号）、第1条歳入歳出予算の補正、歳出第4款衛生費、第1項保健衛生費について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 荻須智之委員長

続きまして、新型コロナウイルス感染症に伴う市主催行事（全市的行事）の実施・延期・中止等の状況について、報告を受けたいと思います。

それでは、資料の説明をお願いします。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。引き続きお願いいたします。

資料、ちょっと戻っていただきまして、04総務常任委員会のフォルダーの中の013政策推進部（追加資料）、そちらのほうを開いていただきまして、013を開いていただきまし

て、最後の27分の27ページのほうで政策推進部の状況をまとめさせていただきました。

資料よろしいでしょうか。

当初予算審議や補正予算審議の中でもう既に話が出ておりますので、ざっとなぞらせていただきます。政策推進部としましては、上からの事業名と、あと右端のほうに実施の状況についてまとめさせていただいています。一番上が123周年市民企画イベント補助事業につきましても、これはちょっと実施できるような工夫をしていただきながら実施していただいた状況です。

二つ目が、ロングビーチ市との交流事業でございますけれども、オンラインで開催という状況でございます。あと、天津市につきましてもオンラインで開催というところです。四つ目が首都圏におけるシティプロモーション推進事業については、感染防止の措置を対応しながら実施しているという状況です。政策推進部については、以上4点でございます。

以上です。

○ 荻須智之委員長

以上4点ということで、ご説明いただきました。ご質疑のある方は挙手にてご発言願います。

○ 笹岡秀太郎委員

TRIOの派遣の代替事業として、こういう形でオンラインでやっているというふうに報告いただいたんですけど、今まで、従来の政策として、過去、そのTRIOに参加していただいた方と四日市市の交流というのはなかったわけですか。

○ 磯村秘書国際課長

これまでご参加いただいた方について、遑って、その後もこの交流事業に関わっていただくという機会がこれまでございませんでしたので、今年度こういうことができたことで、過去に関わっていただいた方も、今後、いろいろ関わっていただけるということが分かりましたので、今後もこのようなことは続けていきたいと考えております。

○ 笹岡秀太郎委員

では、今回のこれを機に、新たにこういう事業が始まったという理解でよろしいですね。

○ 磯村秘書国際課長

そのとおりでございます。

○ 荻須智之委員長

これ、それぞれは個人的にはいろいろ交流が続いているということでしょうか。

○ 磯村秘書国際課長

中には個人的に、メールや何かで連絡を取り合っているご家族もおありとは聞いておりますが、その辺も私どもは全てを把握はしておりませんでしたので、今回、そういうことが分かるよい機会になったかなと思います。

○ 荻須智之委員長

いい機会ですね。ありがとうございます。

○ 森川 慎委員

ロングビーチ市と天津市のところで、決算の見込額を出してもらっているんですけど、この額は、前の議案聴取会のとこだと、もしできたときのために幾ら幾ら確保しているというようなお話はされていたんですけど、その額も入っているんですか。これ、今年度か、ごめんなさい。オンラインで何でこんなにかかっているのかなということを知りたいんです。

○ 磯村秘書国際課長

特にお気になられたのが天津市のほうかなと思いますが。

○ 森川 慎委員

いや、ロングビーチ市でも、オンラインでやり取りするのに84万円、何に使うんだろかなと思うんですけども。

○ 磯村秘書国際課長

これにかかるもろもろ、委託にも出しておりますし、会場費ですとか、いろいろ。あと、準備段階として、いろいろ事前打合せもさせていただいたりとかというところで、費用が発生しております。

○ 森川 慎委員

取り戻せないような段取りしてあったところの額が生まれているという理解でいいですか。令和2年度の話ですね。

○ 荻須智之委員長

これは実施状況ですから、令和2年度ですね。

○ 森川 慎委員

今年の話ですね、今年度の話。

○ 荻須智之委員長

ですから、中止になるまでに既にかかる経費もあるということなんですが、資料を請求されますか。

○ 森川 慎委員

いや、答えてもらえれば。何に使ったのかなというだけで。

○ 磯村秘書国際課長

申し訳ありません、今ちょっと詳細が手元に参りましたので、ご説明をさせていただきます。そのオンライン交流の部分の費用もございますし、過去にご参加いただいたTRI Oですとか、ホストファミリーに対してアンケートも実施をさせていただいておりますので、その分の費用もここに含まれております。

○ 森川 慎委員

400万円、そんなにかかるんですか。今どこの話ですか。

○ 磯村秘書国際課長

今のはロングビーチ市のほうです。天津市のほうに関しましては、申し訳ありません、ここには私どもの国際担当の臨時職員の賃金も含まれておりますので、少し大きめの数字になっております。

○ 森川 慎委員

それなら分かりました。

○ 荻須智之委員長

ほか、よろしいでしょうか。

(なし)

○ 荻須智之委員長

それでは、質疑もございませんので、本件はこの程度といたします。

議案第83号 四日市市土地開発公社経営健全化基金条例の一部改正について

○ 荻須智之委員長

それでは、5番目としまして、議案第83号ですね。総務常任委員会としまして、議案第83号四日市市土地開発公社経営健全化基金条例の一部改正についてを議題といたします。

本件については、議案聴取会において追加資料の請求はありませんでしたので、質疑より行います。ご質疑ありましたら、挙手にてご発言願います。

資料の場所だけ、もう一回お願いできますか。

○ 田中政策推進課長

政策推進課、田中です。

総務常任委員会のフォルダーの中の103議案書という、ちょっとこれページが多いので重たいファイルですが、103議案書を開けていただきまして、314分の7ページになります。

○ 萩須智之委員長

よろしいでしょうか。どうぞ。これだけということで、ご質疑はいかがでしょうか。ございませんか。

(なし)

○ 萩須智之委員長

ご質疑もございませんので、討論に移ります。

討論がおありでしたら、ご発言願います。

(なし)

○ 萩須智之委員長

討論なしということですので、採決を行います。

反対表明がありませんでしたので、簡易採決とさせていただきます。議案第83号四日市市土地開発公社経営健全化基金条例の一部改正については、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(異議なし)

○ 萩須智之委員長

ご異議なしと認め、本件は可決すべきものと決しました。

[以上の経過により、議案第83号 四日市市土地開発公社経営健全化基金条例の一部改正について、採決の結果、別段異議なく可決すべきものと決する。]

○ 萩須智之委員長

これで、政策推進部所管の議題は全て終了しました。

今日はこれにて終わらせていただきます。お疲れさまでした。

17:00 閉議